

# 丹波



関西丹波市郷友会会報

第1号 2016.11.1

## 奥丹波蔵元 山名酒造

当家は元々源氏の総大将、頼朝に付き従った関東武士で、室町時代に応仁の乱で京の都を騒がせた山名宗全の血筋。その後、一族内の争いを逃れて領地を離れ、春日町の興禅寺付近で船川姓に変えて潜んでいたが、一七一六年（享保元年）に現在の市島町上田の地に移り、元の山名姓に戻るのが遠祖の始まりと伝わります。

蔵にある古文書のひとつに、天皇が即位した大嘗祭に奉納米を献上し、宮中から賜った「宝船」を描いたものがあります。カミダ（上田）は神田の呼称が転じたとも言われ、このように稲作に恵まれた環境のもと代々酒造りを生業にして十一代目、平成二十八年で創業以来三百年となります。

江戸時代までは「千歳」、明治維新になり「萬（万）歳」、そして平成に入って「奥丹波」と酒銘を変えて仕込み続けて参りました。

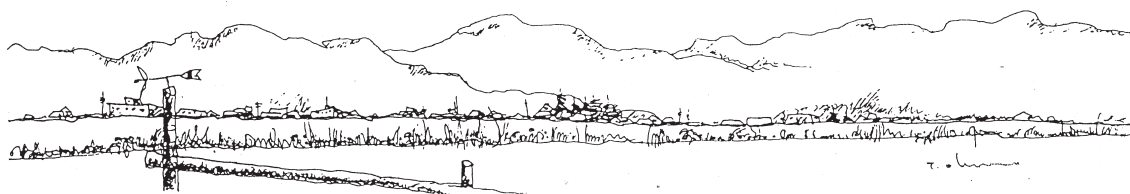


# 奥丹波

# たなばた

関西丹波市郷友会会報

第1号



## 目 次

会報誌の創刊に当たって		有田秀雄	3
「たんば」創刊記念座談会			4
平成27年度総会			10
中学校体育連盟に優勝旗 少年少女合唱団を支援			14
私と関西丹波市郷友会	足立 敏		15
田晴通 前会長の思い出	岸田康博		17
関西丹波市郷友会117年の歩み	小田晋作		19
女子教育の先覚者3人	荻野祐一		25
祖父・俳人西山泊雲	西山裕三		31
細見綾子の俳句と私	清水雅子		34
20回重ねた田ステ女俳句ラリー	土田富美子		36
.....			
最近の自作歌より		大槻佐知子	38
私の心の中の丹波布		芦田敬一	40
オクラホマの思い出		山口直樹	42
私を鍛えてくれた丹波		足立直正	45
家事調停に関わって		仁藤欽嗣	47
放置の山を宝の山に		十倉哲生	49
丹波に「未来へのヒント」		田代春佳	52
熊野神社の裸祭		足立壽宏	54
編集後記			56
題字(表紙・中扉)	荻野丹雪		
写真(表紙ほか)	足立壽宏		
カット(中扉ほか)	奥野隆之		

# 夢と希望を語ろう

## 会報誌の創刊に当たって

会長 有田 秀雄

今年の総会は11月6日に丹波市柏原町のたんば黎明館で開催予定です。本会が発足し、あと3年で創立120周年の輝かしい記念の年となります。なぜ丹波市で開催するのか。それは本会創立の原点に立ち返るためです。

第一の事業目的である丹波市に在住する青少年の健全育成、第二に会員相互の親睦をはかり、丹波市の発展を支援するためです。そしてその目的を達成するためには新会員の増強が必要です。

人口減少時代に入った現在、地方はとりわけ少子高齢化、過疎化に悩まされています。そのあたりを受けたこともあり、本会もここ十年来、少しずつ衰退の

傾向になってきました。何とか立て直しを図ろうと役員が協議し、いつくかの委員会を設けて方策を練っておりますが、この会報「たんば」の創刊もその一環です。

鮭の漁獲を増やすには雌鮭の腹から卵を取り、人工孵化させて稚魚を河川に放流して、それから3〜5年後の秋冬に母なる河川へ3〜4%が産卵しに溯上して来る。人によっては夢は持つな、目標だけ持てと言う人もいますが、私は夢も希望も目標も持ちます。努力する人は希望を語り、怠ける人は不満を語ると言います。今、何をするかが一番大切だと思います。

会報誌は本会の顔です。夢と希望に向かって何を語り何を見せるか、読者から大いに注目されます事を期待しております。新しいメディアが沢山生まれましたが、会報誌の役目は大変重要です。

終わりに、人間は心と体のバランスが大切です。地方と都市も同じだと思います。丹波市が大自然と調和のとれた学術都市になることを願い共に発展したいと思います。



# 創意工夫で改革発展を



## 「たんば」創刊記念座談会

(後列左より)吉見、芦田、山口、足立(直)  
 (前列左より)田、有田、足立(敏)の各氏

### 出席者

(敬称略)

有田 秀雄 (会長)	足立 敏 (財務理事)	芦田 敬一 (理事)	足立 直正 (会報委員)	田 恭子 (常任理事)	吉見 弘文 (会報委員)	司会    山口直樹 (会報委員長)
------------	-------------	------------	--------------	-------------	--------------	--------------------

関西丹波市郷友会は3年後に発足120年を迎えますが、近年は会員が減少傾向にあり、高齢化などに伴い活動もマンネリに陥っていることを否定できません。長い歴史と伝統を絶やすことなく、どう立て直して魅力のある会にしていくか、役員会でも検討しているところですが、久しく休刊になっていました会報の復刊もその一環で、会員間で情報を共有しようという趣旨です。復刊というより「たんば」と名付けて装いも新たに創刊となる第1号の冒頭を飾る企画として、一般会員の方にも参加いただいで座談会を開き、忌憚のないご意見を聞かせていただくことにしました。どうかよろしくお願いいたします。

(司会あいさつ 2016年4月)

山口 それではまず、この会との関わりについてそれぞれ、ご自分の紹介も合わせてお話し下さい。有田会長代行（注・本座談会の3カ月後の役員会で会長就任が決定）からどうぞ。



有田 大阪で石油販売の会社をやっています。入会して30年になります。私自身は神戸の生まれで丹波と直

接関わりはなく、現在の西宮市山口町に実家のあった父が旧制柏原中に通っておりました。大変お世話になった元会長の田季晴さんからお誘いを受けて入会し、前会長の田晴通さんを補佐して副会長に、そして晴通さんが亡くなられたために暫定的に会長代行となっております。丹波とのご縁は浅からず、今後も会の再生のために「原点に戻ってやる」べく努

力をするつもりでおりますが、「郷友」という意味ではやはり丹波出身の方に会長を務めてほしいと願っているところで



足立(敏) 三和金属工業(現サンキン)に入社して間もなく、田季晴社長(当時)が柏原高校同窓会の阪神

支部長をしておられた関係で、上司の熊澤経理部長が事務局を務められ、同窓の私も連れられて支部総会、そしてまた郷友会の手伝いもするようになりました。熊澤さんが退職され、また郷友会事務局が広瀬化学薬品からサンキンに代わるとともに、賛助金の管理を初めすべての事務の仕事が回ってきました。会社の仕事をこなしながらなので専念はできず、淡々と事務的にこなしていたと反省する

ところ大ですが、会社を昨春に定年退社し、今後は今まで以上に関われると思っています。



足立(直) 今日出席の柏原高校同級生、山口君と芦田君に誘われて4年前に入会しました。両君との縁は、

柏高同窓会阪神支部にたまたま3人で出席した折、終了間際に1学年先輩の幹事団から舞台上がるように言われて「還暦の年次が世話をする慣例になっているので来年はこの方たちにお願います」と指名され、否応なく同期生に呼びかけてしんどい目をする事になったのがきっかけです。郷友会もその延長にあるのかもしれないが、総会には1度も出ていません。百年以上の歴史のあることを改めて知り、私も微力でも何かお役に

立てることがあればと思っています。

田 福知山市の出身で、田晴通と結婚し



て丹波市と縁が出来ましたが、京都府と兵庫県は同じ丹波でも多少

違うなという気がしております。郷友会  
はひと昔前、義父の季晴の指導力のもと  
で発展したのですが、私自身は会に  
出ながらもいつも堅苦しさを感じ、「早く  
終わらないかな」とばかり思っていました  
(笑い)。でも、古い会報をめくりま  
すと、本当に錚々たる人たちが歴代の会  
長をしていらっしやいます。今まで鬱陶  
しさがつきまとして、その後会長を継い  
だ亡き主人にも「もういい加減やめた  
ら」などと言っていたのですが、すばら  
しい先人たちが積み上げたことを今一度  
継いでいければいいなと、少しばかり変

身(笑い)しているところです。

芦田 今は民間会社の嘱託医として比較



的余裕のある勤務をしています  
が、50代までは減茶苦  
茶に忙しく

していて、本職以外のことで何か人助け  
をすることなどは思いもつきませんでし  
た。先ほど足立(直)君が言ったように、  
柏原高校同窓会支部の総会の仕事を引き  
受けた時、「これからはこういう、人の  
ための仕事もしていかなくては」と自覚  
し、郷友会の理事も引き受けました。同  
窓会ではどうしても同期の者との付き合い  
が中心になります。様々な人との繋が  
りも大事です。色々な人が意見を出し  
合いながら、もっと面白くなればと思  
います。  
吉見 尼崎の信用金庫に勤務した後、特

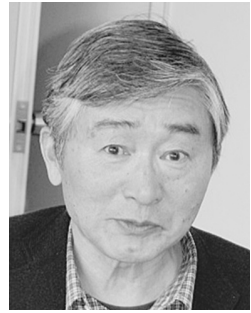
別養護老人



ホームで事務長の仕事をし、丹波の母が倒れたので定年

少し前に退職。田舎と往復する暮らしに  
なりました。最近「大阪丹波友の会」の  
事務局長になりましたが、こちらは純然  
たる親睦団体です。郷友会は若い頃に  
入っていたことがあります。その後自  
然退会になり、今回また誘われて復帰し  
ました。ほかに柏原高校コーラス部OB  
会の会長もし、金にならないことばかり  
色々やって机に書類がちらばっている  
ので、妻に怒られっ放し(笑い)。監事  
をしている柏原高校阪神支部からも副支  
部長就任を打診され、妻の苦情がまた増  
えそうです。  
山口 皆さんから意欲あふれる決意表明  
を聞いて(笑い)、大いに勇気づけられ





ました。吉見さんからほかの会の話も出ましたが、一般にどの会も

会員の減少や活動の低調化など共通の悩みを抱えているようです。参考になるようなことがありますら、話していただけませんか。

**吉見** 柏高コーラス部のOB会は創設60年以上になり、会員は1000人を超えます。でも総会には以前は1000人くらい集まっていたのですが、どんどん減って20人そこそこになりました。解散の意見さえ出てきました。数年前の総会で「先輩とのつながりがあるこの会をなくしてはいけません。1人になっても自分は続ける」とぶちまいたら、若い人の中から「ついていく」と言う人が少しずつ出てきました。5年かかって何とか元の状況に戻り

つつあります。数年おきに開いていた総会を「しんどいけど毎年やろう」ということにして、それから現役のコーラス部との連携を強めようと、母校へしょっちゅう行って担当の先生の尻をたたいているんです。クラブ員も一時5人ほどになって廃部の危機になっていたのが20人まで復活してきました。昨年のOB会総会で、柏原の黎明館で校歌を混声4部で歌ったら、周りに気兼ねしていたのですが、食事していた客がわざわざ聴きに来てくださり、またたまたま外を通りかかったOBが「こんなことやっとなん。これから自分も参加するわ」と言ってくれました。

**足立（直）** 私は川西市で小中学教員の管理職OB会の世話役をしています。会員が1000人いる中で、やはり参加者は20人ほどに減って、誘っても「魅力がないから行かない」という人が少なくありません。案内文に「年に1度くらい集まっ

て色々な人と話をするのも人生の楽しみでは」と書いたこともあるのですが、危機からは抜け出せていないのが実情で、通信費さえ十分にまかなえていません。でも役員会では「たとえ1人でも楽しめ」と言う人がいる限り、続けよう」と話し合ったところです。郷友会も友達からの誘いがあったからこそ、こうして参加することになりました。10人でも20人でも集まる人があれば、続けていけるのでは。山口 そのように思っていたら心強いですね。やり方を少し工夫すればまだまだ先は開けるかもしれません。ここで、具体的にどういことが考えられるか、ご意見を聞かせて下さい。

**有田** 100年以上前の会の発足当初には、大阪、神戸に出て来た人たちが遠い丹波をしのびながら励ましかけていたと思うのですが、これだけ距離が縮まって通勤圏にすらなっているという現状では、やはり「丹波あったの会」というこ

とを認識して、丹波にもっと軸足を移した運営が必要になってきていると思います。丹波市在住の会員もこれまで以上に増やすために、今年の総会は初めての試みとして柏原の黎明館で開くことを決めました。これまではゲストを入れても60人くらいの出席だったのを、100人にはしたいですね。ともかくどういいうインパクトがあるか、見てみようと思います。この会報も関東氷上郷友会が出しておられる「山ざる」をお手本に、あれは大変立派な内容ですが、またそれとは違うユニークなものが出来たらと期待しています。

**足立（敏）** この会は先人の方々のご尽力で、この種の会としては全国的にも稀有なくらい潤沢な基金を持ち、青少年支援で立派な事業をしています。その割には実に奥ゆかしく、目立っていませんでした。でもこれからはやはり積極的にPRしていかなくてはなりません。会報

では「丹波は今、こういう状況になっている」、「個々の会員がこんなことをしている」という情報載せる。また支援事業を公募制にして、会報以外にも地元メディアの丹波新聞やFMたんばにとりあげてもらい、支援対象の活動を関係者以外の人に知ってもらうようにする。支援事業の公募と会報を両輪にすれば、かなりの関心が集まって、会自体のPRに役立つのではないだろうか。

**田** 夫に連れられて年に1回の総会にだけ出ていたのですが、役員に加わって過去の会報の記録などを見ていると、初めて会員としての実感が出てきました。やはり会員が総会以外にも関われるような機会が出来たらいいですね。私はソロプチミストの会に入っていて、コンサートや講演会をチャリテイですることがあり、結構収益も出ます。とにかく、行って楽しく、親しめる会に、そして町も活性化するような企画を立てたいです。

**芦田** 少子高齢化の流れはどうすることもできないでしょうが、丹波新聞を読んでいると、移住者なども含め、色々な活動をしている人がいますね。これまで「青年の育成」に絞って事業をしてきましたが、もう少し幅を広げればよいのではないかと思っています。そして、これらの人々や市との連携ももっと考えてよいのではと思っています。それと関大や関学の学生が拠点を作って色々なことをしてくれています。彼らを会費は安くしてこの会に巻き込んで活動してもらえば、また違った展開が出来るのではないのでしょうか。私は自分の娘も引張って、SNS（ソーシャルネットワークワーキングサービス）などを使って丹波に興味のある若い人のグループをつくってもらおうと考えています。また、ホームページなども含めITの利用は大事だと思います。

**足立（直）** 丹波市が毎年、「感謝のこたば」を全国公募して、私も応

募しています。これが私が丹波とつながっていることのひとつです。新聞やネットで丹波のニュースを見ると、やはり気になって見ます。「丹波は今何をやってるんやろ」と、故郷を思う心だけで応援してくれる人がいますが、でも入会を待っているだけでは来ない者は来ないですよ。

**吉見** 先ほど話した柏高コーラス部のOB会のフェイスブックを勝手に作って流したら、これまで全く知らなかったOB、OGの方たちからもアクセスがありました。何でも積極的に進めれば、それなりに成果が出てくると思います。

**足立(敏)** また基金の話ですが、皆さんから預かっているお金ですから、これまでどうやって減らさないで増やしていこうかと気苦労が絶えませんでした(笑い)。でもマイナス金利の世の中ですから、事業を利息の範囲内だけでと考えずに、有意義なことなら思い切っ

使っていけばいいですね。その分、会報への広告や協賛金をお願いし、チャリティ事業などを行って補っていけば。

**有田** 丹波市との連携も、総会に市長さんらに来てもらうだけでなく、もう少し強めたいですね。お金のことは無理でも、担当の方を決めていただいて何らかの形で企画に加わってもらうとか、ふるさと納税者の方にこの会のことを伝えてもらうとか。

**芦田** 丹波在住、出身者にこだわらずに、関大、関学の学生ばかりでなく、丹波に縁のある人、興味を持っている人には幅広く呼びかければいいと思います。

**田** 私の友人で丹波出身ではないのですが、「先日柏原に行ったら若い人たちが大勢集まって仕事していて、面白い所やった」と感心していました。

**山口** 「はびねずマーケット」という若い人が中心になった市が毎月開かれていて、それを見られたのかもしれない。

皆さんから良いアイデアが随分出てきて、実行に移せるものから手がけていければと思います。ほかに言い残されたことがあれば。

**足立(敏)** 120周年が3年後に控えていますので、その準備にもそろそろ取りかからなければなりません。100周年の時は表彰事業を青少年に限らず、地域に貢献して活動している団体を広く取り上げて、最優秀賞は80万円でしたか。

その方たちにも来ていただいて総会は大変盛り上がりました。関東氷上郷友会ともお互いの100周年に代表を招き、当時の田晴通会長ご夫妻に行ってくださいました。活発にやっておられる関東との交流もこれから大事な課題だと思います。

**山口** 120周年事業で締めくくっていただきました。お互いに今日のお話をもとに、会員の方たちにも広く伝えて、意義ある120周年にしたいものです。

# 優勝旗など贈呈

## 平成27年度(第105回)総会

### 優勝旗の内訳

に優勝旗9本の贈呈が行われた。同連盟の宮垣祐司会長以下それぞれの種目の代表選手が壇上に入り、有田会長代行から優勝旗を受け取り感謝と喜びの声を伝えた。

第105回総会は平成27年11月7日(土)午前11時受付、11時半より宝塚ホテルすみれの間で来賓4名、招待者51名、会員22名が出席して開催された。

③今後当会が新しく生まれ変わるための取組みへの決意。第1歩として来年の総会を「たんば黎明館」で開催する。

第1部総会は岸田康博常任理事の司会で進行し、本田冴子常任理事の「開会の辞」に続き「物故者追悼」として物故者の在りし日を偲び黙祷を捧げた。

▽田晴通前会長を偲んで(写真集上映)

▽物故者(3名)敬称略、以下同じ)

平成26年10月15日に亡くなった田晴通前会長を偲んで同氏が作成に尽力された写真集「関西丹波市郷友会第100回(創立110周年)記念大会総会・記念イベント・祝賀会」が上映された。

和久晋也、上月章次、常岡幹彦

▽会務・会計報告ならびに事業報告

▽会長代行挨拶 有田秀雄

足立壽宏監事から平成26年度の会務・会計報告ならびに事業報告について説明があった。

①当会のルーツ、目的と今年の奉仕活動  
②ノーベル賞受賞と丹波市への期待(若い人への願いと丹波市の目指すべき姿)

▽本年の奉仕活動

昨年に引き続き丹波市中学校体育連盟

①サッカー競技②バレーボール競技男子の部③バレーボール競技女子の部④ソフトテニス競技男子の部⑤ソフトテニス競技女子の部⑥卓球競技男子の部⑦卓球競技女子の部⑧駅伝競走大会男子の部⑨駅伝競走大会女子の部  
また丹波市少年少女合唱団に対し定期演奏会において祝儀を贈った事の報告があった。

また長寿者(下記、当日欠席)に記念品を送付すると共に、来年以降は長寿祝いを廃止としたことの報告があった。

傘寿||足立良平、田原義朗  
米寿||なし

▽来賓挨拶

辻市長から丹波市の現況などについて説明があった。

また石川兵庫県議会議長から県における丹波市への取り組みなどの説明があった。

#### ▽丹波市少女合唱団の合唱

合唱団による「唱歌」の合唱があり、出席者と共に「野ばら」を合唱した。

小田晋作常任理事による「閉会の辞」の後、記念写真撮影を行った。

#### ▽第2部 宴会

岸田常任理事の司会で進行し、田恭子常任理事の「開会の辞」に続き、奥村正行市議会議長による「乾杯」の発声で食事が始まった。

小田繁雄教育長から丹波市青少年への当会の支援に対する感謝の言葉などがあった。

山口直樹常任理事による発声で全員が「万歳三唱」し、山口洋子常任理事の「閉会の辞」で第2部の幕を閉じた。

来賓、支援団体の皆様や郷土の方々との交流、および会員同士の親睦を図ることができ、大変有意義な時間であった。

#### ▽主な出席者（敬称略）

（来賓）丹波市長 辻重五郎、兵庫県議会議長 石川憲幸、丹波市議会議長 奥村正行、丹波市教育委員会 教育長 小田繁雄

（招待者）丹波市中学校体育連盟会長 宮垣祐司 他 教員9名、中学生選手13名、保護者10名、丹波市少女合唱団代表指導者 西垣真由美 伴奏者 堀有子、合唱団員16名 会員15名、同伴者7名 合計77名

（足立 敏 記）



中学生の競技選手や少女合唱団員を混えての27年度総会の出席者

第105回 関西丹波市郷友会 総会



第105回 関西丹波市郷友会 総会



上段左 || あいさつする有田会長代行  
 上段右 || 中学校体育連盟に優勝旗を贈呈  
 中段左 || 謝辞を述べる宮垣中学校体育連盟  
 会長(中央)  
 中段右 || 謝辞を述べる競技選手ら  
 下段 || 少年少女合唱団が花を添えた



第105回 関西丹波市郷友会 総会



第105回 関西丹波市郷友会 総会



上段左 || 丹波市の状況について話す辻市長  
 上段右 || 兵庫県の政策などを説明する石川  
 県会議員  
 中段左・右 || 出席者らがなごやかに談笑  
 下段 || 田晴通前会長の思い出などを話す  
 恭子夫人

(撮影 野村忠利)



## 中学校体育連盟に優勝旗

平成26年度、27年度の2年間に渡って、丹波市中学校体育連盟に、総合体育大会の軟式野球、ソフトボール、バスケットボール、バレーボール、サッカー、ソフトテニス、卓球、剣道、陸上、駅伝の男女、総合など18競技の優勝旗を寄贈した。費用は計111万6千円。また28年



更新された総体優勝旗を掲げる宮垣会長

度から3年計画で、新人大会の16競技に対して順次寄贈する。計105万6千円。

以前の優勝旗は「氷上郡」の文字が入っており、これですべての優勝旗が「丹波市」に更新されることになる。近畿大会や全国大会に数多くの選手を輩出してきた同連盟。宮垣祐司会長（柏原中学校長）は「地域から応援を頂いていることで、子供達にも励みとなり、大変ありがたい」と話している。

## 少年少女合唱団定演を支援

同合唱団は1975年に「氷上郡少年少女合唱団」として結成され、今年8月に第40回記念演奏会を丹波の森公苑ホールで開いた。これまでに定期演奏会のほか皇太子（現天皇）ご夫妻奉迎音楽会（82年）、読売テレビ「森の音楽会」（93年）、

市民オペラ「おさん茂兵衛」（2005年）などに出演。「篠山・丹波合唱祭」など地域の音楽イベントにも毎年参加す



今年8月20日に行われた定期演奏会

るほか、北京中央楽団少年少女合唱団、ウィーン少年合唱団の来日時に交流するなど、多彩な活動を続けている。第1期生の足立さつきさんや、足立志穂さんらの歌手も送り出した。

現在の団員は小中学生合わせて30名。塩見浩之代表ら7人が指導し、毎週練習している。関西丹波市郷友会では近年、定期演奏会への支援を毎年続けている。



# 私と関西丹波市郷友会

## 財務理事 足立 敏

私が初めて関西水郷友会（当時）に

関わったのは、1993年（平成5年）

11月20日（土）に宝塚ホテルで開催され

た第84回総会で受付係をさせて頂いた時

の事でした。何しろ慣れない事なので、

混雑するお客様の対応、会費の徴収、資

料のお渡しなどでパニックになりかけま

したが、周りの方々に助けて頂いて何と

か無事終えることができたことを懐かし

く思い出します。

当時私は三和金属工業（株）（現

在のサンキン（株））に入社して27年目で総

務課長をしていました。当時会社では、

創業者である故田季晴氏が取締役相談役

を、その右腕とも称される故足立周三氏

が取締役会長をされていました。その頃

の会社では本社ビルの増改築工事が進行

中で、翌年（1994年）の4月には旧

サンキン（株）との合併により新サンキン（株）

の発足を控えるという、正に盆と正月が

いっぺんに来たようなあわただしい毎日

を送っておりました。

そのような中で田相談役がこの会の名

誉会長をされていた関係で、会の財務理

事就任を要請され、1994年1月に前

任の熊澤秀晃氏（当時会社の経理部長）

から引き継ぎを受けて、財務理事として

賛助金会計をメインに務めさせて頂きま

した。

その頃の会長は第7代の広瀬巖氏（故

人）が務めておられ、事務所は神戸にあ

る広瀬化学薬品（株）内において、総会、役

員会の準備や一般会計の手続き全般もそ  
ちらでやっておられました。そんな訳で  
当初は会のお手伝いといってもそんなに  
手間もかからず、楽をさせてもらって  
いました。

ところがその後1998年（平成10

年）11月14日に広瀬会長が退任され、新

たに第8代会長として故田晴通氏（当時

サンキン（株）代表取締役会長）が就任さ

れ、同時に会の事務所も現在のサンキン

（株）に移されました。当時の私は経営企画

室次長として、会社から特別な任務を与

えられそれに邁進している時期でした。

そこに会の事務局として、総会や役員

会の準備と一般会計も引き受けねばなら

ないことになりました。事務的なことは

当時の会長秘書を担当していた女性にお

願いして、総務部からのバックアップも

受けて何とかやってきました。また当初

は、総会に関する交渉面や準備を担当す

る係の方が会におられて、その方の指導



1996年（平成8年）に新神戸オリエンタルホテルで開かれた第87回総会（100周年記念号より。後列右端が筆者）

や助言のもと準備を進めることができましたが、その内その方も総会の係を降りられて、事務局にすべてが降りかかることになりました。

そのため、総会や役員会においてややもすると事務的に淡々と進めることになってしまい、関係者の方々には誠に申し訳なかったと反省しております。

そうこうしている内に月日は流れ、一昨年（2014年）10月15日に田晴通会長が急逝されました。また私事ながら私も昨年（2015年）3月31日を以って会社を辞めることになりました。

当時この会は会員の高齢化が進み会員の減少から将来の存続も危ぶまれ、役員会の中では解散することも案として検討されるような状況でした。

しかし、会として116年間の伝統と歴史があり、丹波の青少年育成という意義のある活動を絶やしてはいけないという意見が強まり、現在その活動方法、あ

るべき姿、体制などを検討し、実施に向けて動き始めました。

「関西丹波市郷友会は今後も発展を続けます」との合意のもとに、会の活動を一般の皆様にも広く知って頂き、総会を充実し楽しい実りのあるものに変えて、会員を増やしていく所存です。

私も微力ながら、これらの活動に少しでも貢献し、併せて自分の退職後のやりがいの一つとして大切にしていきたいと思っています。

そして、いずれは若く優秀な後任を見つけて、席を譲りたいと考えています。それまでは、この会と共に歩んでいくと心に誓っています。

# 田 晴通 前会長の思い出

常任理事 岸 田 康 博

田晴通さんとお会いしたのは、三十二年前の昭和五十九年十一月でした。その時、田晴通さんは、眼鏡レンズの販売と、眼鏡レンズの生地を輸入する会社の社長でした。

私はご縁があって、当時の「関西水上郷友会」会長の田季晴さん（晴通さんの父）にお会いし、三和金属工業株式会社に入社してすぐに、晴通さんの眼鏡レンズ販売会社の「三和光学株式会社」へ出

向しました。

昭和四十八年十一月発足の「三和光学株式会社」は、米国コーニング社、米国ボシユロム社と取引、「レーバン」サンングラスレンズの生地を総輸入元であり、その生地を加工して、全国を販路に「レーバン」サンングラスレン

ズの国内で唯一の販売会社でありました。また、その他一般眼鏡レンズを、国内眼鏡卸業者、大手眼鏡販売店等へ、東北以西沖縄まで販売していました。晴通さんと私は同学年で、三和光学株式会社で私は営業部長として、その後七年間一緒にお仕事をさせていただきました。

晴通さんは、当時から「皇太子さん」の渾名があり、そのお人柄は温厚で、誰からも好かれる人でした。「怒られた」ということはなかったように思います。常に勉強家で、外部の「話し方教室」へも通われており、その話術は、ユーモアにあふれ、人をあたたかく包み込むやさしさがありました。みんなを引き付ける魔力がありましたね。

お得意先へ同行していただいた折も、おだやかで、誠実なお人柄なので、客先での評判もよく、商売がうまく運んだことも、何度もありました。その場にいる人を、なごやかにさせる、笑顔の輪を広

## 関西丹波市郷友会



平成23年の第101回総会で田晴通前会長と（右筆者）

げる、そんな特技をお持ちの人でした。

社員の誕生日も、しっかりと覚えておられました。誕生日には、必ずその人に合った品物をプレゼントされています。女性には、かわいい小物。私は「運動靴」をいただきました。革製の靴でした。当時で一万円以上の製品で、一緒に靴屋に行き、私の足に合う靴を買っていただきました。「休日には、しっかり運動して、身体を鍛えなさい」と言われたのを記憶しています。

その後、この運動靴を永く愛用し、私の体力づくりに役立ちました。他人の健康を気遣ってのプレゼントにも、大変な気くばりを今になって強く感じます。

社員旅行で、沖繩に行った時のことです。現地でレンタカーを借りて、那覇から糸満の先までドライブしました。私が運転手、晴通さんが助手席。そばから次から次へと指示が出されます。機知にとんだ話しぶりで、笑いあり、一切退屈

させません。とに角、知識豊富。一緒にいて、楽しい人でした。

沖繩の海を巡る遊覧船に乗るのも、自ら社員の先頭に立ち、率先して行かれました。社員の欲していることをいち早く察知して行動する。みんなの喜ぶことを、よく理解されていたのです。

社員に対しても、気くばりは満点。そつと飲み物や、お菓子を差し入れされることは、日常茶飯事でした。みんなに愛される社長でした。

「関西丹波市郷友会」の会長に就かれてからも、ずっとご一緒させていただきました。大阪での役員会のあとも、私は阪急梅田駅まで足をのびし、二人で歩いて帰り、いろいろご教示をいただいたものです。

最後にお会いしたのは平成二十六年三月八日の「関西丹波市郷友会」の役員会でした。体調がよくないことは言われていました。役員会の閉会后、いつものよ

うにご一緒に帰ろうと、私が帰り支度で手間取る間に、晴通さんは先に帰られました。

これまで、いつもご一緒だったのに、この日は早かったのです。今から思えば体調がすぐれなかったのかもしれない。

そして、十月十五日、田晴通さん死去の報せを足立敏さんから受けました。ショックでした。享年七十五才でした。

十八日の大阪千里会館での葬儀は、多くの参列者でした。生花が式場の周囲を取り巻きました。

翌十九日「第一〇四回関西丹波市郷友会」が、宝塚ホテルで開催されました。田晴通会長の想い出がいっぱい詰まった

「関西丹波市郷友会」が……。  
今も、田晴通さんを想い出すたび、私の涙の枯れることはありません。

# 錚々たるリーダーの下に

## 関西丹波市郷友会117年の歩み

会報委員 小田晋作

関西丹波市郷友会は明治32年（1899年）に発足以来、117年の歴史を持つ。故郷の氷上郡（当時）から大阪や京都、神戸に出た同郷人たちが、ふる里のことを思いながら親睦を深め、また後進の者たちを支援しようという目的で作られた。幹部には当時の日本をさえリードするような錚々たる人たちが名を連ねてきた。平成10年（1998年）に発刊された「関西氷上郷友会百周年記念誌」（余田貞雄編）をもとに、その後の経過も補足して、これまでの軌跡を概説する。

本会は明治32年10月21日（注・昭和ま

では元号で、平成以降は西暦で記す）、「大阪氷上郷友会」として発足した。大阪市北区の「静観楼」に30名が集まり、田艇吉氏らが幹事に名を連ねている。2年後の明治34年10月には東京の氷上郷友会と合併し、「氷上郷友会大阪支部」となつて田幹事が支部長に。その後京都支部、神戸支部を大阪に合併して大正14年、「関西支部」と改称したが、昭和7年に東京より独立して「関西氷上郷友会」に。田支部長が初代会長に就任した。

会長はその後、有田邦啓（昭和14年）、上田要（昭和17年）、永井幸太郎（昭和34年）、荻野益三郎（昭和39年

）、田季晴（昭和59年）、広瀬巖（平成2年）、1990年）、田晴通（平成10年）、1998年）の諸氏に引き継がれ、現在の有田秀雄氏に至っている（田晴通前会長までのプロフィールは後述）。

さて、明治35年4月に柏原町の崇広小学校で行われた「氷上郷友会創立総会の記」（幹事 蘆田哲造）という文書が残っている。東京から田健治郎氏（後に逓信大臣）、大阪から田艇吉氏、京都から津田要氏（旧柏原藩家老）らが出席し、宍戸秀策氷上郡長ら地元の有力者多数を集め、会長に織田信親子爵（旧柏原藩主）、副会長に田健治郎氏ほか大阪、京都、神戸、氷上の各支部の人事や会則を決めた。これが全国組織としての氷上郷友会の正式の旗上げと見られるが、関西丹波市郷友会の歴史としては前述の「大阪氷上郷友会」が発足した明治32年としている。

なお、この崇広小での会合で田健治郎

氏は東京での事情について述べており、それによると「明治28、9年頃から水上出身の学生たちが春秋2回集まって親睦を深めていたが、社会人も参加して、奨学育英の支援や指導監督なども行う機関を作ろうという機運が高まってきた」のが、水上郷友会の発端という。これについて「関東水上郷友会年表」（1995年発行の『山ざる』100周年記念号）には、「明治29年11月2日に東京水上郷友会の発会式」と記されている。

このような経緯をたどった後、関西水上郷友会は会員の増強、寄金による基本金の充実と共に事業活動を活発にした。後進の育成、激励の事業では昭和10年から水上郡内の全小、中学校の成績優秀者に卒業式で校長から表彰状と賞品が贈られ、戦後の一時期まで続いた。

昭和59年からは「後進育成のための賛助基金」が新たに創設されて1100万円を集め、現在は3700万円余に上っ

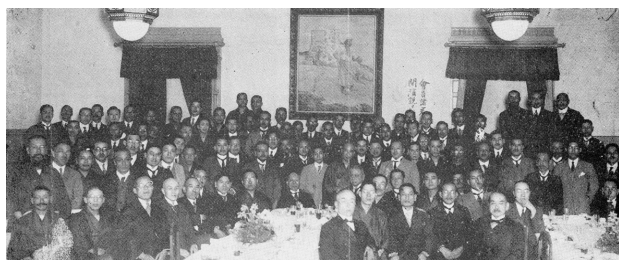
ている。その利子を活用して少年少女合唱団、ボーイスカウトなどへの活動資金助成や、小中学生の競技団体への優勝旗の寄贈など数々の事業を展開してきた。

また平成10年（1998年）の創設100周年には記念事業として、青少年の育成に貢献する水上郡内のグループを対象に賞金総額310万円の「人づくり大賞」コンクールを実施。応募33団体の中から大賞（賞金80万円）の「国際葛リーン作戦山南」、準大賞（同50万円）の「水上町東地区国際交流協会」などが選ばれ、入賞13団体を招いて記念大会を開き、郷土出身のオペラ歌手、足立さつきさんの出演などで盛大に祝った。

さらに平成21年（2009年）の第100回大会（戦時中のブランクにより周年としては110年）には、水ノ川子ども太鼓「鼓輝」、遠阪少女バレーボールクラブ、尺八演奏の高校生、井本早紀さんら6団体、3個人と、表彰数を例年よ

り大幅に増やして記念事業とした。

今後の展開については、会員の高齢化などにより、会員数は減少傾向をたどり、厳しい状況ながら、昨年来、役員を補充増強するとともに、3年後の120周年に向けて魅力ある会にさせるための新たな方策の検討を始めたところである。



大正14年、田昌大蔵省次官らを迎えて大阪市内で開かれた第28回総会

## 歴代会長プロフィール

(敬称略)

初代 (1899～1938年)

田 艇吉(でん・ていきち)



1852年、柏原町下小倉で生まれる。織田藩儒、小島省斎の塾生となり、豊岡県福知山支庁に勤務後、上京。26歳で警部となるが家督を継ぐために帰郷。1879年(明治12年)、初の県議選に当選。水上郡長も兼務した。1891年

(明治24年)に衆議院議員に当選。鐘が坂トンネルの開通(1883年)や阪鶴鉄道(現福知山線)の建設(1899年に池田―福知山開通)に力を注いだ。

阪鶴鉄道社長のほか住友総本店支配人、大阪市会議員なども務め、電燈、炭鉱、銀行などの事業にも関わり、大正14年(1925年)、余生を送るべく柏原に帰った。昭和13年(1938年)、享年87歳で死去。

弟の田健治郎は逓信大臣、台湾総督などを歴任し、東京水上郷友会会長を務めた。また長男の田昌は大蔵次官、衆議院議員。

第2代 (1939～1941年)

有田 邦敬(ありた・くにゆき)

1883年、水上町谷村で生まれる。旧制柏原中学の第1回卒業生。往復12キロの道を歩いて通学した。京都大法学部卒業後、内務省から逓信省へ。大阪の逓信局



に勤務の時、池上四郎大阪市長から抜擢されて32歳で市助役に。助役から市長になった関一(せき・はじめ)を補佐して、市営地下鉄や御堂筋、下水道施設などを整備。大阪の近代的な都市改造に尽力した。昭和3年(1928年)、経営危機にあった京阪電鉄の副社長に就任、さらに社長となって再建を果たした。

郷友会長就任時には、多数の戦死、戦傷者を出した水上郡内の姉弟の遺家族のために、会員から多額の厚生資金を集めて贈った。



左より上田（第3代）、荻野（第5代）、永井（第4代）の各歴代会長が談笑（昭和40年、京都・大覚寺で）

第3代（1942年～1958年）

上田 要（うえだ・かなめ）

1885年、春日町棚原の旧家に生ま

れたが、小学校卒業の頃に家運が傾いたため、名古屋銀行

（後に東海銀行、現三菱東京

UFJ銀行）の京都支店に丁

稚として就職。夜学に通いな

がら正社員となり、大阪支店

の支店長格に。32歳で独立

し、大阪に短資業（銀行同士

を仲立ちして資金を融通させ

る業務）「上田商店」（後に上

田短資、現上田八木短資）を

設立。「正・清・誠」の三セ

イ主義に基づいて信用第一に

徹した商取引で日本銀行から

も大きな信頼を得て、会社を

発展させ、現在では東京外国

為替市場を運営するまでに

なった。

ふる里への思いも人一倍強く、昭和9

年（1934年）に母校の進修小学校に

1万円（現在価値1千万円以上）の奨学

基金を贈った（戦後にインフレのため資  
金を追加）。

第4代（1959年～1963年）

永井 幸太郎（ながい・こうたろう）

1887年、山南町下滝生まれ。旧制

柏原中で1級上の芦田均（後に首相）と

親しく、神戸高商（現神戸大）卒業後、

外資系石油会社に就職したが、高商同期

生の高畑誠一に誘われ神戸の鈴木商店に

入社。明治から大正時代にかけて日本経

済をリードした同社は金融恐慌のため倒

産するが、高畑らと協力し、子会社を母

体に綿花などを扱う「日商」として再興。

同社は戦後、総合商社10社の一角を占め

るまでに成長した（その後、日商岩井を

経て現「双日」。市島町出身の後輩、西

川政一も日商岩井の初代社長。永井は戦

後の一時期、貿易庁長官や甲南学園理事

長も務めた。



第5代（1964年～1983年）

荻野 益三郎（おぎの・ますさぶろう）

1897年、青垣町東芦田生まれ。旧制柏原中から一高、東京法学部に進み、戦時中に一時司法省にいたほかは一貫して判事を務め、大阪地裁所長、札幌・福岡・名古屋・大阪の各高等裁判所長官を歴任。昭和37年（1962年）に退官後は弁護士に転じた。昭和49年（1974年）に勲一等瑞宝章を受章。

芦田小学校で1級上の武庫川学院理事長の公江喜市郎が、複式学級の同じ教室で学んだ。昭和43年（1968年）に柏原高校柏陵同窓会大阪支部と関西氷上郷友会が共催した叙勲（勲二等旭日重光章）祝賀会で公江は「武庫川学院の校舎が空襲でやられ、戦後インフレのため建設工費の支払いに窮していた頃、荻野さんに相談に行ったら、東大同窓の住友銀行専務宅に自ら足を運んで融資を助けて下さった」という話を披露している。

第6代（1984年～1989年）

田 季晴（でん・すえはる）



1911年、柏原町柏原で生まれる。幕末には柏原藩の御殿医を務めた藩士の家柄だったが、没落して父は「金銀細工田貞閑堂」の看板を上げる細工職人だった。7人きょうだいの長男で、姉4人が「元禄の四排女」と称せられる田捨女（晩年に出家後、「貞閑」と名乗る）を祖先に持つ田家再興のため、成績の良い弟を何とか中学へ」と学資を工面してくれて柏原中に進学。

卒業後、山口銀行（後に三和銀行）に

入り将来を期待されたが、若くして独立し、昭和21年（1946年）、大阪に継目なし鋼管などを製造する三和金属工業（現サンキン）を設立。戦後幾度かの危機を乗り越えながら、多くの関連会社を擁する屈指の優良企業に育て上げた。

関西氷上郷友会会長に就任と同時に、「117年の歩み」で先述した通り、後進育成のための賛助基金を会員から広範に集めた。戦前からあった基本金が戦後のインフレのため枯渇状態だったので建て直しを図ったもので、現在では3700万円余という額に上っている。

田捨女直系11代目の子孫で、田艇吉、健治郎らの田家は分家筋に当たる。季晴は散逸していた捨女関連の資料を収集し、「田家再興」の姉たちの宿願に応えた。また柏原歴史民俗資料館の別館として田ステテ女記念館を柏原町に寄贈。収集した資料が、健治郎ら東京の田家に伝わる資料と共に同館に収められている。

第7代（1990年～1998年）

広瀬 巖（ひろせ・いわお）



1914年、山南町谷川で、衆議院議員、中川幸太郎を出した中川一族の家に生まれたが、小川村の広瀬家を継ぐ。柏原中卒業後、武田薬品子会社の武田化学薬品に入社。

兵役から帰還し、昭和22年（1947年）、神戸に薬品販売の店を開業。広瀬化学薬品として発展させるかたわら、ライオンズクラブや更正保護協会などの社会活動に尽力した。

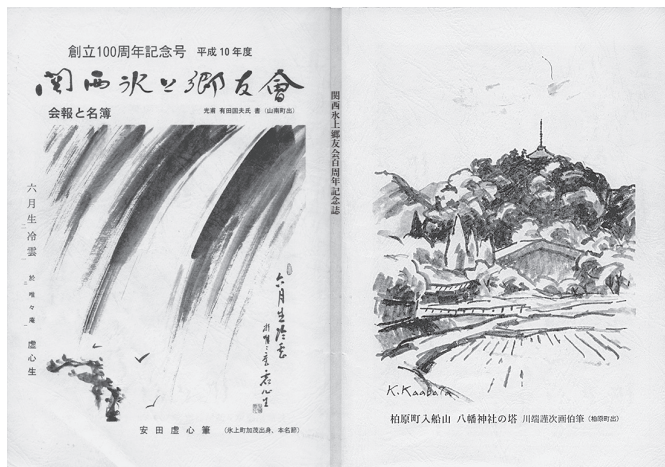
第8代（1998年～2014年）

田 晴通（でん・はるみち）



1940年、季晴長男として生まれる。関西学院大卒業後、三和銀行を経て、昭和49年（1974年）、丸十ロツカー代表取締役就任。三和光学社長、サンキン会長などを歴任。

柏原で開かれる、先祖の田捨女を記念する「ステ女俳句ラリー」や「ステ女忌句会」などに、平成26年（2014年）に死去するまで毎年必ず足を運んだ。別記「田晴通 前会長の思い出」（岸田康博）参照。



1998年に発行された「関西水郷友会百周年記念誌」

## 女子教育の先覚者3人

丹波新聞社社長 荻野祐一

井上 秀

(いのうえ・ひで)

1875—1963



人気を呼んだNHKの朝ドラ「あさが来た」で、春日町出身の井上秀をモデルにした人物が登場したこともあって、これまで丹波新聞で秀に関する記事を読んだ。秀は、秀について書くのは今さらかもしれないが、女子教育に尽くした丹波市ゆかりの人物は秀だけでなく、他にもいる。武庫川学院創設者の公江喜市郎、東洋女子高校創設者の村上専精だ。女子教育に献身した人物たちとして、秀を含めた3人を紹介したい。まずは井上秀から。

井上秀は明治8年（1875）、春日町山田の生まれ。「あさが来た」の主人

公のモデルになった女性実業家の広岡浅子に娘のようにかわいがられ、浅子が創立に尽力した日本女子大学校に入学し、のちに4代目校長を務めた。当時、日本では未開拓だった家政学を研究。大正11年（1922）には、米国ワシントンで開催された世界婦人軍縮会議に出席し、軍備撤廃を求める演説をした。日本女子大学の同窓会「桜楓会」の幹事長も務め、桜楓会の活動として大正2年に託児所を開設するなど、働く女性たちを支えた。夫は青垣町稲土出身の井上雅二（旧姓・足立）。雅二はマレー半島でゴムの栽培を手がけ、日本人のブラジル移民を推進するなどグローバルに活躍した。昭和38年（1963）、死去。

秀の経歴は、ざっと以上の通りだが、これでは無味乾燥なので秀の人間性を物語るエピソードを紹介したい。「隻手の音声」という難問に22歳の頃、体当たりで取り組んだ話だ。

秀は、何かわからないことがあると、徹底して調べようとした高い向学心の持ち主だった。そんな秀があるとき、孟子の書にある「浩然の氣」という言葉に出くわした。『浩然の氣とはいったい何か。またそれを得るにはどうすればいいのか』。秀はわからず、悩んだ。

私の手元にある国語辞典では、浩然の氣について「天地に恥じない剛健の精神。おおらかで、のびのびした気持ち」と説明している。私ならばそれで十分に満足するのだが、秀は私のような凡庸の徒ではない。この程度の語句説明に得心できなかった秀は、人をつてから峨山がさん老師に出会い、教えを受ける機会を得た。峨山老師は天童寺管長を務めた名僧である。峨山にまみえた秀は、「浩然の氣を我が物にしたいのですが、方法がわからず困っております」と打ち明けた。すると、峨山は「一つ公案をあげる。考えてこい。これがわかれば浩然の氣もわかる。『隻

手の音声』に何の音声があるか」と突きつけた。

隻手の音声というのは、江戸時代中期の禅僧、白隠が創案した禅の代表的な公案の一つらしい。白隠は修行者たちを前に、「両手を打ち合わせると音がする。では片手ではどんな音がしたか」と問いかけたという。

峨山から突きつけられた課題に秀は一日じっくり考え、得た答えを峨山に報告したところ、見事に叱られた。翌日も考え、持って行ったところ、同様の結果。その翌日も然りで、1週間叱られ続けた。しみじみ自分が情けなくなつた秀だが、へこたれることはなかった。「やめるものか!」と、逆にのめりこみ、天童寺近くの竹藪の中にあつた尼寺に泊まり込んだ。廢寺に等しかった尼寺でひたすら公案に取り組み、答えを持って峨山の前に出た。しかし、いいと言ってもらえず、叱られ通した。その間、およそ半年

近く。

ある日、「何をぐずぐずしている。まだわからぬか」と峨山の雷が落ちた。その瞬間、秀は我を忘れて答えを發した。すると、峨山は「それでよい」と認めたという。

豁然かつぜんとして眼界が開けた秀。のちに秀は、そのときの体験を「これまでの井上秀は死に、新しく生まれ変わった」と振り返っている。

秀のたくましさがわかるエピソードだ。叱られ続けても降参することなく、食らいついた秀。まったく頭が下がる。

柏原町にあつた郡立氷上高等小学校を卒業し、京都府立第一高等女学校に進む時も、進学に反対する父親の前に引き下がることなく、粘り通して進学を果たした。高女に進学後、そのレベルの高さから英語の試験で零点を取るといふ屈辱を味わつたが、逆に奮起して猛勉強をし、2学期末の試験では英語で百点をとり、

卒業まで首席を通した。これらのエピソードも、秀のたくましさを伝えるのに余りある。

だからこそ、希代の女性実業家、広岡浅子に気に入られ、娘のように愛されたのだろう。9回転んでも10回起き上がるという意味の「九転十起生」を座右の銘にした浅子と身近に接し、「生き抜く力」を授かったという秀だが、浅子を通して秀は天与のたくましさに一層、磨きをかけてに違いない。

## 公江 喜市郎

(1911年・きいちろう)

1897—1981

武庫川女子大学をはじめ幼稚園、中学校、高校、短大、大学院を有する武庫川学院を創設した公江喜市郎は、明治30年（1897）、青垣町栗住野に生まれた。御影師範学校に学び、29歳で、兵庫県下



の教育を行政面から指導する兵庫県視学となった。昭和6年（1931）、欧米の教育事情を視察し、イギリスの私学教育に感銘した喜市郎は、女子の私学教育に身を投じることを決意。昭和14年、武庫川高等女学校を設立し、日本有数の女子総合学園武庫川学院を築き上げた。日本私立大学協会副会長、日本私立短期大学協会副会長などの要職も務めた。昭和56年（1981）、死去。

喜市郎の生涯を俯瞰するとき、両親の存在の大きさが浮かび上がる。喜市郎の親は米穀商を営んでいたが、

代金を払わない人がいても、とやかく言わず、なかには貸し倒れになる人がいても、黙っていつまでも食糧を渡していたという。人情に厚く、打算を超越したところがあった。父親はよく喜市郎少年に、「人に物やお金を貸して、それが貸し倒れになることがあったとしても、自分が人を倒してはならない」と言い聞かせたという。

イギリスの私学教育を視察し、自分の今後の半生を投じる道は私学の教育において他になく、当時、まだ十分でなかった女子の教育に打ち込みたいと決心した喜市郎は昭和12年、官を辞し、私学経営に乗り出した。同年、私立芦屋高等女学校を設立したのだが、協力者と意見が合わず、失敗に終わった。

再起を期した喜市郎だったが、周囲の反応は冷やかだった。経済的に苦しくなり、信用も失った。そんな逆風の中にあつた喜市郎を支えたのが、ふるさとの

両親だった。喜市郎はこう書いている。

「私を信じてこれを支持し、これを援助し、郷里のわずかなる家屋敷の財産を投げ打ってまで激励してくれたのが、ほかならぬ父母であった。『お前の一念である私学創設については、お前が好きないようにせよ』と言って、この苦難の時の私を励ましてくれたのは、まさに両親だけであった」

家の財産を処分してまで支援してくれた両親の理解と愛情に奮い立った喜市郎は、武庫川学院の創設に踏み出した。

昭和14年4月、武庫川高等女学校の第1回入学式を挙行。しかし、学校運営はたちどころに行き詰まり、経営困難に陥った。翌年の12月には、年末を迎える資金すら事欠く始末となった。窮地に立たされた喜市郎に救いの手を差し出したのは、またもや両親だった。再び喜市郎の叙述を引こう。

「忘れもしない創立二年目の昭和十五

年十二月十九日、学校はついに年末を迎える資金にすら事欠くに至った。進退き

わまった私は、郷里に父を訪ねてその金策を相談した。父は思案研究の末に、父の名義で三千円の金を二十日に調達してくれた。私はそれを持ってただちに学校に帰り、当時十二名だった職員の俸給と賞与にこれを当てて、辛うじて年を越したことを、今でもまざまざと記憶している。心配した父や母は、私がどうして年を越すであろうかと、年末二十四日には、わざわざ郷里から駆けつけてくれたほどであった」。

こうして創業の危機を乗り越えた喜市郎だった。

では、喜市郎はどのような女子教育を進めたいと思ったのか。それがわかるのが、武庫川女子大学の学寮のひとつ「能婦寮」だ。この名前は、喜市郎が名づけたもので、母親の名前「のぶ」にちなんだ。母親のようによく働き、努力家で、

つましやかな女性が一人でも多く育つようにと願った命名だった。

ちなみに父親の名前は、盛蔵。武庫川学院が今あるのは、もちろん喜市郎の功績によるところが大きい。喜市郎の背後にいて、支え続けた両親の存在も忘れてはならないだろう。

## 村上 専精

(むらかみ・せんしょう)

1851—1929



教育者、仏教史学者として活躍した村

上専精は嘉永4年（1851）、春日町野山に生まれた。仏教を歴史的に研究し、数多くの著作を発表。東京帝国大学に印度哲学科の講座をつくることに力を

尽くし、同大学の教授を務める一方、明治38年（1905）には東京に東洋女学校（現・東洋女子高校）を創立し女子教育にも打ち込んだ。大正7年（1918）、帝国学士院（現・日本学士院）の

会員に選ばれた。安田財閥の安田善次郎の寄付で東京大学につくられた安田講堂は、東大に講堂がないことを憂えた専精が安田に講堂をつくるよう求めたのがきっかけ。昭和4年（1929）、死去。

専精が明治34年に発表した「仏教統一論」は、宗派を超えた仏教の根源に迫る内容であったため、仏教界の反響はすさまじく、真宗大谷派から排斥されたという。専精は僧籍を自ら脱し、学者としての信念を貫いた。その堅忍不拔の精神性はどこで根差したのかを思うとき、専精

の子ども時代や青年時代の体験にあったのではないかと思う。

専精は、教覚寺という寺の長男として生まれた。極めて貧しい寺だったが、父親の広崎宗鎧は、近くの子弟を集めて学問を教えるなど、教育に熱心な人だった。現在の船城小学校の前身の学校の初代校長も務めたという。

専精はこの父親から厳しい指導を受けた。毎朝暗いうちから起きて、三部経・大無量寿経、観無量寿経、阿弥陀経）を教えられた。習いながら頭を叩かれない日はなかったというが、厳しい教育のおかげもあってか7歳までに全部読めるようになった。専精はのちに、この体験が自分をつくる基礎になったと感謝している。

家が貧しいために8歳の頃から他の寺に預けられ、18歳のとき、姫路市に遊学。明治4年、20歳のとき、仏教学を学ぶため、新潟県に行くことを決意した。

両親は苦心して、新潟に行くための費用9両2分を工面した。1カ月ほどかけて無為信寺、武田行忠のもとに着いたとき

はわずか1両1分しか残っておらず、専精は、このお金で夜具を買うか、筆や墨を買うか悩んだが、学問に必要な筆や墨を選んだ。買い求めたときは無一文になったという。寺で水汲みや飯炊きなどの仕事をし、冬の夜は、布団の代わりに蚊帳をまとって寝るといった体験もしながら、「唯識三十述記」という大変難しい講義を聞き、勉強した。

この苦学も、専精の基礎をつくったものと推察される。

さて、専精と女子教育だが、仏教史学を研究した専精は、高僧の伝記にふれると、いずれも母親が立派であったことに気づき、有為な人材を育成するには母親となる人、つまり女子の教育が重要であると痛感。それが東洋女学校の創立の動機となった。当時、キリスト教関係の学

校が次々と創設されていたこともあり、  
仏教精神に基づく女学校の創立を決意し  
たという。

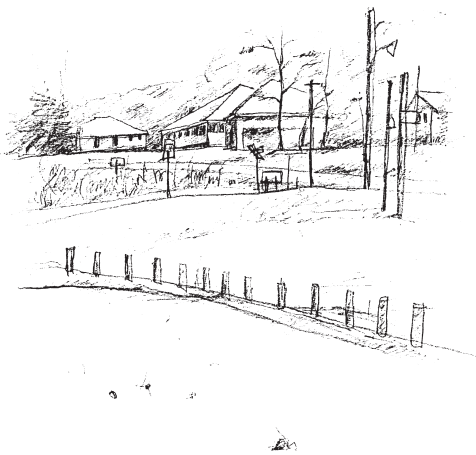
東京帝国大学で大学生を教えながら、  
女学校でも教えた。その両刀使いについ  
て専精は「午前は帝国大学に出て、ひげ  
を蓄えている老書生に対し哲学的高尚な  
る玄妙の理を講じ、帰って午後になれば  
頭にリボンをつける十四、五歳の少女相  
手の講話は、あたかも千両役者の早変わ  
りに似合っている」と書いている。

専精の女子教育の要諦は、「天職」「中  
庸」「質素」「謙讓」「節操」の5つ。そ  
れぞれの意味するところは、「女子には  
男子と異なる天職があるから、それを忘  
れず、自己実現に向けて努めなさい」「極  
端に偏った考えや行動をとることなく、  
どんなときも中道中正でありなさい」  
「衣服、頭髮などすべて質素を心がけ、  
虚飾や奢侈な流行に走らないようにしな  
さい」「傲岸な態度をとることなく、謙

虚で慎ましきを持った女性でありな  
さい」「自らの信念に基づき、言動に責任  
を持って、正しい道を進みなさい」。こ  
の五訓は今も、東洋女子高校の底流にあ  
るといふ。

以上、3人について書いたが、女子教  
育に尽くした丹波市ゆかりの人物として  
はほかに、柏原高等女学校初代校長の  
近藤九市郎がいる。しかし、九市郎に  
関する私の知識ははなはだ心もとない  
し、紙幅もとうに尽きたので遠慮してお  
く。

長々と書き連ねたが、丹波市という土  
地は、女子教育の先覚者を多く輩出した  
ことを知っていただき、同郷人として誇  
りになったとすれば幸甚である。





虚子の支援で本業と“余技”

## 祖父・俳人西山泊雲

西山酒造場会長 西山裕三

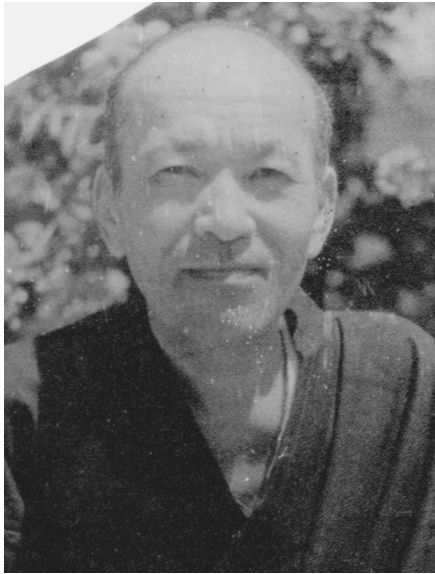
西山泊雲（本名は亮三）は明治十年に父、騰造と母、いえの長男として竹田村で生まれました。

小学校卒業後、山東義塾や山西義塾で

漢学等を学びました。父親は商売一徹の人で文学なんぞは絶対認めない人でしたから、悶々として家業の酒造業を手伝っていました。しかし十四才と十六才と十

七才の時、三回も家出をしています。

最初は神戸に出てコック見習いをして米国に渡ろうと考えていましたが、すぐに引き戻されました。二度目は京都へ出かけて堀川の商業学校へ入って勉強しましたが、また連れ戻されます。三度目は東京へ行きます。退役軍人が南



西山泊雲

洋探検をするというので、小さなスクーター船に乗り、外海に出ましたが、脚気になって千葉県の館山で降ろされ、深川の安宿にいる所へ、また又父親が迎えに来て戻されました。しかし、どうにも商売一途にはなれず、神経衰弱を患って自殺を試みることもありました。そんな中、明治三十五年九月に亡くなった正岡子規の辞世の句に、いたく感激します。自分の死をかくも客観視できるものかと。その句は次の通りです。

糸瓜咲て痰のつまりし仏かな  
痰一斗糸瓜の水も間にあはず  
をととひのへちまの水も取らざりき

当時、次弟の泊月（本名は勇）は東京の早稲田大学に通っていましたが、子規の後を継ぐ人を誰か探してくれと頼みます。そこで泊月は二人の有力な弟子がいるが、河東碧梧桐よりも高浜虚子の方

がいいだろうと友人から聞き、虚子のところへ出向きます。仲介役の君がやらな  
いと、こちらの意向も伝わりにくいので  
一緒にやっってはどうかと言われ、兄弟  
揃って師事することになりました。

二代目の父は三十九年一月に亡くな  
り、三代目を引き継ぎます。この間、三  
十一年に黒井の野村家のヤスと結婚して  
いましたが、子供ができなかったために  
離縁して、四十年に黒田庄村石原の藤田  
のえと再婚して四十二年一月、長男謙三  
(小鼓子) が生まれました。しかし商売  
の方はうまくいかずにととう破産とい  
う状態に陥ってしまいました。大正四  
年、虚子先生は弟子の泊雲の家をなんと  
か助けようと、吉野左衛門や山崎楽堂と  
いった俳句や謡の友達と一緒に丹波に來  
られました。これを機に旧來の銘柄「国  
乃礎」から「小鼓」に変わりました。先  
生が謡をやっておられた関係から「金  
春」か「小鼓」のどちらかにしようと考

えた末、小鼓に決まりました。

ここに美酒うまさけあり名づけて小鼓といふ

虚子

ホトトギス発行所を通じて小鼓を東京  
の俳句や謡関係の人に売っていく契約書  
も作っていますし、先生自身もホトトギ  
ス大正四年六月号に「銘酒小鼓の事」の  
文も書いておられます。

そして一頁の広告文には「問屋を通さ  
ずに酒造場より直接家庭へ」のコピーで  
「安くてうまい酒」とあります。文人墨  
客にお客がつき、当時夏目漱石や鈴木三  
重吉等も小鼓を飲んでいたという文が阿  
部能成の「我が生ひたち」に出てきます。  
泊雲は先生の唱えられた「客観写生」  
を忠実に実行した人で、大正時代を中心  
にホトトギス巻頭を二十八回も飾りまし  
た。大正十二年にはなんと六回と、一年  
の半分も占めています。

昭和九年に勧められて「泊雲句集」を  
出しましたが、序文には徳富蘇峰にお願  
いして、虚子や親交のあった小川芋銭に  
序文や絵も書いてもらおうという豪華な句  
集になりました。

昭和十四年十一月に妻のえが亡くな  
り、本人は随分気落ちしたと思います。  
十六年に詠んだ

淋しさに声はり上げぬ山桜

は珍しく主観の入った句です。長男小鼓  
子は当時三菱地所に勤めていて、満州の  
新京(現長春)にいましたが、会社をや  
めて丹波に帰ってきます。晩年は糖尿病  
を患って離れで三女久美や三男洸三と一  
緒に暮らしていましたが、十九年九月十  
五日、享年六十九才で亡くなりました。  
終戦となり、信州小諸に疎開中の先生は  
いの一に二十年十一月、年尾と立子を  
伴って丹波の泊雲墓前に来ていただきま

した。

鯉も老いこの寺も古り幾秋ぞ 年尾

丹波路も草紅葉して時雨して 虚子

時雨来ぬまず出て見よや雑木山 立子

の親子三人の句が近くの石像寺の句碑の庭にあります。

泊雲は生涯、自分主宰の俳句雑誌は発行しておりません。小鼓子にも「お前、俳句は程ほどにしておけよ」といったそうです。俳句をやり出したらおもしろくなって商売の方がおろそかになってしまうことを、よく知っていたからだと思えます。自分の二十代から三十代にかけて家が傾いてすこぶる苦勞したのが身に沁みていたがため、「俳句はあくまで余技たれ」と言っていたそうです。



## 細見綾子の俳句と私

俳誌「梅檀」編集長 清水雅子

丹波市青垣町東芦田出身の俳人細見綾

子について、その故郷の人たちは意外と知らない。

俳句の世界では季節ごとに彼女の俳句が例句として取り上げられている。

例えば春

チューリップ喜びだけを持ってゐる

ふだん着でふだんの心桃の花

つばめつばめ泥が好きなる燕かな

夏

そら豆はまことに青き味したり

老ゆることを牡丹のゆるしくるるなり

青梅を洗ひ上げたり何の安堵

秋

急ぐ雲急がぬ雲に秋立てり

でで虫が桑で吹かるる秋の風

鶏頭を三尺離れもの思ふ

冬

峠見ゆ十一月のむなしさに

冬来れば母の手織の紺深し

枯れに向き重き辞書繰る言葉は花

新年

木綿縞着たる単純初日受く

餅花を挿してより夜の濃くなれり

正月の月が明るい手まり歌

これらの俳句にある新しさとポエトリ（詩性）に私はいつも感動する。丹波の原風景が彼女の中に生涯生き続けたことも、自分と重なって感じられる。

細見綾子は明治四十年、氷上郡芦田村に誕生。家は江戸時代から続く素封家の一人娘であった。綾子が柏原女学校二年の時、父が病没。文学に興味を持ち始めた綾子は母に懇願して東京の日本女子大へ進学した。二十歳で卒業と同時に医学生であった許嫁と結婚。しかし二年後夫は結核で亡くなる。傷心の想いで故郷丹波へ戻るが、三か月後に母も病没。その中で自分も結核性の肋膜炎を発症。闘病生活を余儀なくされる。

主治医の田村青齋から俳句を勧められたことから、綾子の俳句人生が始まる。青齋の師であり「倦鳥」主宰の松瀬青々は、月並み俳句を嫌い、自分に素直に詠むことを奨励していた。綾子の自分に正直で素直な感性は、初めて句会（黒井）



細見綾子

に出席した時から青々の目を引いていたようだ。俳誌「倦鳥」にも投句を始め、病も少しずつ回復に向かう。

池田市の郊外で転地療養をしていた頃は、大阪市内で開かれる句会にも出席、青々の好む文楽を共に観劇したりもした。綾子三十歳のとき、青々が亡くなる。そして綾子の第一句集「桃は八重」が昭和十七年に出版される。この時代に女流俳人は少なく、注目される。この句集が

縁で、後に夫となる沢木欣一と知り合う。二人の年の差は十二歳、結婚した時（昭和二十二年）綾子四十歳、欣一は二十八歳の青年だった。欣一の情熱、綾子の勇気には驚かされる。沢木欣一は綾子や仲間と共に「風」という俳句結社を金沢で立ち上げる。

その後東京の武蔵野へ転居するが、「風」は全国誌として、三千人を越える会員を有した。綾子が丹波出身なので、

柏原に丹波支部もでき、私の母も入会、後に同人にしてみました。

そんな縁で私も、綾子・欣一の弟子であった辻恵美子氏が「風」終刊後立ち上げた「梅檀（せんだん）」に入会、今では、毎月岐阜から丹波へ帰り、二つの句会で綾子俳句の良さを知ってもらおうと共に学んでい

る。最初に立ち上げた「ひまわり句会」は昨年八月、十周年を祝う小冊子を出した。若い人や昼間は仕事のある方たちのために立ち上げた、夜の「つはぶき句会」も早四年を過ぎた。

親が亡くなると故郷は遠くなるものが俳句のおかげで、ひと月に一度丹波へ帰ることができる。故郷の景色や丹波弁の温かさにふれることは、私の大切な充電の時間でもある。細見綾子、母から受け継いだ俳句への愛、そして故郷への愛がある限り、この丹波通いを続けてゆきたいと思っている。

（柏原町出身、岐阜県各務原市）

# 20回重ねた田ステ女俳句ラリー

田ステ女をたたえる会 代表 土 田 富美子

「雪の朝二の字二の字の下駄のあと」

私の住んでいる柏原町が生んだ偉大な俳人、田ステ女が六歳のときに作ったといわれる、誰もが知っている有名な句です。

「元禄の四俳女」の一人に数えられたステ女は俳人として崇められています。が、女性として、母としての生き方も立派な人でした。その一端を示すものが、娘マンにしたためた結婚心得で、崇広小学校前にある田ステ女記念館に残されています。

五男一女の子どもに恵まれ、幸せな日々を送っていたステ女に、人生を大き

く変える出来事が降りかかります。四十

二歳のとき、夫の季成が亡くなったので、ステ女は柏原の地に庵居を結び、季成の菩提を一心に祈りました。その念仏行は三年間に及んだと言われています。

このようなステ女のまごころは人々の心を打ち、誰言うともなく、この庵居を「千日寺」と呼ぶようになりました。千日寺跡は現在、「田ステ女公園」となり、田ステ女俳句ラリーの際には参加者が句の着想を得るために足を運んでいるだけでなく、普段から訪れる人が跡を絶ちません。

平成9年にステ女の三百回忌法要が、田家十一世の故・田季晴様夫妻によって営まれました。たぐさんの方が出席さ

れ、私たち「田ステ女をたたえる会」の会員も法要の席に侍らせていただきました。それにあわせて記念俳句ラリーを実施することになり、今も毎年五月の「母の日」に田ステ女俳句ラリーとして続いています。

三百回忌の際の俳句ラリーでは、伊丹三樹彦、宇多喜代子、木割大雄、坪内稔典、山田弘子、丸山哲郎の各氏が選者を務められました。現在は、宇多喜代子、木割大雄、坪内稔典、山田佳乃の四名の先生にお世話になり、今年で二十回目を迎えました。

二十回目の記念大会では十九件のご後援をいただき、盛会のうちに終了しました。ラリーを終えたこの日、たんば黎明館内のル・クロ丹波邸で「あとの祭り」と称して記念祝賀会を催しました。記念講演をいただいた辻恵美子先生（梅檀<sup>だん</sup>「主宰」と選者の先生方をお招きし、五十人が参加。にぎやかに盛り上がりま

した。

田ステ女記念館に保管されている門外不出のステ女の直筆句集を解説した本「捨女句集」が、二十回目のステ女俳句

ラリーが開催された今年五月八日を発行日に和泉書院から出ました。編著者は、小林孔先生、坪内稔典先生、ステ女末裔の田彰子さんの3人で、ステ女の二百四十二句がわかりやすく解説されています。田家十二世の故・晴通氏夫人、田恭子様のご厚意により本の寄贈を受け、ステ女俳句ラリーの参加者や関係者の皆様に差し上げました。二十回記念に花を添える贈り物で、受け取られた方々はとても喜ばれていました。

20回記念大会も大勢の参加者でにぎわった

ステ女俳句ラリーがよちよち歩きの活動から始まって、ここまで続けてこられたのは、選者の先生方の温かいご指導と、田家をはじめとした皆様の心からのご支援ご協力の賜物にほかなりません。おかげで実行委員会には新しい会員も増えました。

また年内の完成を目標に、お力添え頂いた宇多喜代子、木割大雄、坪内稔典、故・丸山哲郎、故・山田弘子の諸先生方の句碑を柏原藩邸そばの黎明館向かいに建てる計画も進めております。

「お客様を温かくお迎えする心は誰にも負けない！みんなの心でおもてなし」を合言葉に、会員一丸となってこれからも俳句ラリーの活動を一生懸命にしていきたいと思えます。ステ女と共に。

(柏原町在住)



# 夢の続きが見たくて……

## 最近の自作歌より

礫の会会員 大槻 佐知子

肉売り場ニワトリ・アヒル丸ごとに

加工されて此方を見つむ

レイキャビックのチヨルドニン湖の

白鳥は少し汚れてパンをおねだり

イナバウアー・琴バウアーして

オーロラを見上げておりぬマイナス九度

お見舞いに行きたし怖しそれでもと

メールをすれど返事がこない

マジックの太く元気な彼の文字

だんだん細く歪んでゆくなり

年賀状くれたる彼がもういない

ひとこと挨拶してからにせよ

何もかも決めて逝きしか彼のふみ

葬儀の後に法名で来る

《私が短歌を始めましたきっかけは二

〇〇三年一月、丹波新聞のカルチャー教

室の案内に「初心者歓迎。何時からでも

お一人で参加できます」の文言に魅せら

れ、勇気を出して入門したのがきっかけ

です。当時由良琢郎先生が創刊され主宰

されていました「礫れきの会」にも勧められ、

同時に入会させて頂きました。

二〇〇五年に礫の会員五人で合同歌集

「響き」を出版し、二〇〇九年に個人歌

集「亡夫のネクタイ」、二〇一四年に「古

稀のステージ」を出版しました。その際

は由良先生はじめ大島笙治前主宰、竹村

公作現主宰や礫の会員の皆さまにお世話

になり現在に至っております。上達は出

来ませんが、病床にあっても出来る趣味

を持っていれば人生退屈しないであろう

と、下手な横好きで続けております。も

のを見るとときも考えるときも、少し方角

を変えれば意外と見えないものが見えた

り、冷静な判断が出来ることも多く、日

記代わりに気楽に詠んでいます。》

ヘルシンキ中央駅の構内で

用を足すには一ユーロいる

カート引く私の二倍の大男

肉・肉・肉・肉を買う



そよ風に添い寝をされていたように

目覚めていたり七時すぎおひ

嫌な事さらりと忘れる特技もつ

われは和食と日本酒好み

人形に語りかけられ人の眼も

人形のごとくやさしくなりぬ

自画像をシャルフベックは書き続け

骸骨のごとき自画像もある

時間がない時間がないと見て回る

美術めぐりは忙しいもの

ピカソの絵青の時代の「酒場の

二人の女」影の重たく

モディリアーニひと目でわかる首長く

少し細身でなで肩なりし

ひたすらに祈る人らに交わりて

われは一言「ありがとうさん」

寄りかかる木と寄りかかれると

雄山雌山おごさんめつさんと呼ばれる山に

親から子子から孫へと繋ぐ生命

自分の番をわれは生きおり

年齢を聞かれて告げるわが声は

なぜか明るい七十五歳

夢の続き見たくて寝んと焦がれたり

焦がれた夢も忘れし目覚め

《以上は最近の作から「礫の会」の竹

村主宰に選んで頂いた二十一首です。以

下は私が選んだ歌。》

「吹っ切ろう」と哀しみ一つゴミの日に

ポイと捨てたり十二月二十日

コーゲン500ミリなるサプリ飲み

雛と皴の字思い描きつ

過ぎたれば笑ってすませる事だろう

昨夜の風も今朝はおさまり

七月の蘇武岳山頂吹く風は

冷蔵の扉開きしごとく

玉ねぎにもオスとメスとがありまして

畝に放されしオスの行く末

夢の中すーと伸び来る君の手は

わが胸の上とまりたるまま

(春日町在住)

## 私の心の中の丹波布

理事 芦田敬一

昭和29年に丹波布技術保存協会、そして昭和30年に町村合併で青垣町ができた事を最近知りました。その時に、何十年も忘れていた「バンザイ、バンザイ、アオガキチョー」というフレーズを思い出しました。私は、確かに、青空のもと万国旗の下を、小さな手で旗をふりながら、このフレーズを張り上げて、佐治の町を練り歩いていました。

青垣町佐治なかんちょう中町には、鉄筋3階建ての町役場、2階建ての農協ができたので、戦後10年、新たな時代に入ったのでしよう。前年に丹波布技術保存協会が立ち上げられたのは、そのような町や日本

の雰囲気と無縁ではないと思います。

私の母、芦田良子の実家は綿屋という屋号で、祖母の足立たかと母の弟である叔父とその妻の叔母（足立康子）の3人が暮らしていました。私の家はそこから200メートルくらい離れた所であり、父と母と私と弟の4人暮らしでした。綿屋には子供がいなかったので、孫である私と弟は自分の家のような感覚でそこでよく遊んでいました。

正月には、祖母、母、叔父、叔母、私、弟で夜遅くまで、トランプのババ抜き、7並べ、花札、百人一首などで楽しく遊んでいました。トランプでは私は勝って

いましたが、百人一首は完全に祖母と母に負けていました。今になって思うのは、それが母娘の昔の正月だったのでしよう。私にとって、そのような楽しい思い出の家が祖母の家の綿屋です。

丹波布は祖母、母、叔母の3人、そして様々な人の関わりにより再び世に出てきました。それから、沢山の人の手を経て、今のような青垣町の特産品になっています。子供の頃の私には思ってもみなかったことです。

丹波布の記憶は、最初の頃、綿屋の集まりでの話を、父と母の会話のなかで聞いていましたが、世間話のひとつにすぎませんでした。母はよく祖母の家に糸を染めに行っていました。

丹波布の特徴のひとつは、草木染めです。土間や庭を使って大きな釜にお湯をいれ、染色をしていました。濡れた糸の束は重いので、母と叔母はいつも2人で仕事をしていました。ビニール手袋をは



庭で染めの作業をする母（右）と叔母、足立康子  
（昭和35年頃）

め、釜のなかに手を入れたり、2人で一緒に糸束を絞っていました。

祖母は穏やかな顔で腰を曲げて、2人の仕事を見ていました。染色の次は縦糸の模様を決めます。枠になる木を8畳くらいの広さで、部屋の四隅に組みたてます。同じ色の糸を束にしてその周りにま

わしていき、縦糸の模様をつくります。

この仕事も最初の頃は、母は祖母の所でしていましたが、いつの頃からか私の家でも始めました。次は縦糸の模様を最終的に決めます。向こう側とこちら側に、穴のあいた細い金属がそれぞれ数十本ぶらさがっていて、向こう側こちら側と交互に、その穴に糸を通していきます。

次は、櫛のような細い木で隙間がつくられているおさに、順次縦糸を通していきます。大まかにいうと、この様な作業を終えてはたを織る事になります。実際には、足踏みでこの金属の1系列の縦糸を上げて、縦糸の間をシャトルで横糸を通し、おさを手前に持ってきてボタンバタンと音を出してはたを織ります。

次に、足踏みで他の1系列の縦糸をあげて同じようにして織ります。この操作を繰り返して、布が作られていきます。母は丹波布のことは家ではあまり言いませんでしたので、母も叔母もどのように

して覚えたのか詳しくは知りません。ただ、苦勞して身につけたという印象はありませんでした。祖母は実際に織ることはなく、賞をもらった時に「すわって表彰されるなんてええな」と言った事を覚えていています。

昭和42年、私は高校を卒業して丹波を離れ、それ以降は長期の休暇しか帰りませんでした。やがて祖母がいなくなり、そののちは、祖母の家にもあまり行かなくなりました。時が過ぎるとともに、私の家には織り手のないはた織り機のみが残り、そのはた織り機も今はありません。

丹波布、青と茶を基調としたその縞模様をみると、ほっとした気持ちになるのと同時に、母、祖母、叔母を思い出します。様々な私の思い出をしまい込んでいる心の中の蔵のようなところ、そこから私の子供の頃の思い出を呼び出す物、それが丹波布なのです。

（青垣町出身、尼崎市）

## オクラホマの思い出

常任理事 山口直樹

25歳の時、2年間勤めていた阪神間の

中学の理科教員を思い切って退職し、世

界を一人で旅して回った。1年後には試

験を受け直して再び教職に就くのだが、

この間に、ユーレイルの鉄道バスを利用

してヨーロッパ中を回ったり、イランや

エジプト、東南アジアまで約50カ国に足

を運んだ。青春を2度味わうような充電

の時期で、その後の自分の人生にとって

豊かな栄養となった。思い出は語り尽く

せないが、ここではまず英語を習得する

ため1974年4月から3か月間、オク

ラホマ州立大学の語学学校で学んだ体験

を中心に、垣間見たアメリカのことなど

について記そう。

構内にゴルフ場や滑走路

オクラホマ州はアメリカ中南部にあ

り、テキサス州の北隣。ロサンゼルスか

らグレイハウンドのバスに揺られて1昼

夜半で州都のオクラホマシティに着き、

ちょうど通りかかった州立大生の車を

ヒッチして、50<sup>キ</sup>南方の小さな町、ノー

マンに向かった。ここに大学がある。周

りは360度ぐるりと見渡しても地平線

ばかり。

州立大学は、アメリカンフットボール

が強いことで有名だ。キャンパスの広さ

にはただただ嘩然とした。構内に大きな観客席のついた競技場がある。ゴルフ場もあり、料金は1日1ドル。パラシュー卜部のための軽飛行機用滑走路まであった。一つ一つの建物の間隔が広く、車がないと不便で仕方がない。駐車場も広々としている。

ビフテキ食べるのが苦痛に

土地も広いが、物も豊富。貧乏な旅人にとって学生食堂はご馳走づくめだ。毎日食べきれないくらいのビフテキが出た。700<sup>ギ</sup>から1<sup>キ</sup><sup>ギ</sup>くらいあり、初めは喜んで食べていたが、そのうち残さずたいらげるのが苦痛なほどになった。果物や野菜、シリアル、果物ジュース、牛乳、デザートのアイスや、ケーキなどもカフeteria方式になっていて、好きだけ食べられた。

日本の学生食堂の貧弱さとの違いを目の当たりにして、アメリカの豊かさを実



イラン人のルームメイト、ハミッドと

た。

### 大学寮は戦死者の名前

感したが、同時にアメリカ人の過食と肥満について深く考えさせられた。必要以上で食べて太って、ダイエットで苦しむという、矛盾したことをしている。お金のある人はダイエットにも時間とお金を使って太っていないが、そうでない人は本当によく太っている。日本人の太っているというのとは桁が違い、相撲の小錦みたいな人が信じられないくらい沢山い

た。大学寮は戦死者の名前  
語学学校（ELSSランゲージセンター）は、オクラホマ州立大学の構内にあった。語学学校の学生も大学の寮に住んで、同じ学食で食事をするわけだ。寮には、全て個人の名前がついていて、プレートに、何年に卒業し、いつどこで戦

わかった。

### ペルシャ語と日本語

死したかが書いてあった。戦死したOBを記念して命名されているのだ。

ペルシャ語と日本語  
ELSSランゲージセンターの寮のルームメイト、ハミッドと仲良くなった。テヘラン大学卒の彼は兵役後、渡米したり2歳上の27歳。大柄で気が優しく、姉がロンドン大学で医学を専攻し、ロンドンで産婦人科医をしているとか。

戦死した場所は、全て海外だった。同国の多くの若者が世界各地の戦場に行き、生命を落としていくという

この学校は当時イランからの留学生が多かった。オクラホマ州が石油を産出し、州立大学には石油関係の学部があったからだ。今は両国の関係が悪くなったので事情は変わっていると思う。

ことが実感として

ハミッドは、アメリカの大学で勉強して、石油掘削の会社に入りたと言っていた。今は音信が途絶えてしまったが、いつか再会したいものだ。  
彼との思い出の中で印象深いのは、ペルシャ語と日本語の違いについて話した

時のことだ。僕が日本語の本を読んでいるのをぞいて、「字が面白い」と言った。日本語にはいくつの文字があるかと尋ねるので、「ひらがな約50、カタカナ約50」と答えたら、「とても多い、難しそうだなあ」と感心する。「それ以外にも中国から入ってきた漢字というのがあ、その数は僕が知っているだけで約3千。全部だと1万以上になるだろう」と言うと、本当にぶったまげたようだった。

ペルシャ語には17文字しかないそう。ペルシャ語はアラビア語と同じく右から左に書き、とても難しそうに思えるが、ハミッドに言わせると日本語よりよほど簡単という。

石が地面のどこにもない

語学学校での3カ月の習得期間を終え、ノーマンを去る日が来た。その前日、それまで全く気付かなかった不思議なこ

とに出会った。今後の旅に不必要なものを日本に送り返すために荷物の整理をして、何か記念品を送りたいと思ったが、お金がないのでこの土地の石でも荷物に入れておこうと、キャンパスの周辺で石を探したのだが、地面に一つも見当たらないのだ。

どこをうろついても黒茶色っぽい土ばかり。探しまくってようやく、プールの建設現場で土を掘り返した場所で小さな石を見つけた。岩盤が地下ずっと深い所にある地層なのだろうが、日本では信じられないような現象だった。

陽気なアメリカ人

この後、北米大陸を気ままに回り、ニューヨークから運賃の安いアイスランド航空の飛行機に乗り、レイキャビックからヨーロッパ入りした。アメリカを離陸しながら、あらためてアメリカ人の陽気さ、人懐っこさを思った。心が広いの

か、何なのか、とにかくすぐにうち解けてくる。初めはとまどうこともあったが、その陽気さがすっかり心地よく感じられるようになった。自分のネットワークを広げるにはとても大事なことだ。

世の中が人と人とのつながりで出来ている以上、たくさんつながりがあった方が、よほど楽しく豊かに生きられる。20歳代半ばの自分にとって、そのことを身をもって知ったことだけでも大きな収穫だった。



## 私を鍛えてくれた丹波

会報委員 足立直正

小中高校時代を昭和30年から42年まで丹波の水上市で過ごし、その後四年間、西宮市で下宿生活。就職して昭和46年から50年まで岐阜県へ行った後、川西市へ移り現在まで川西市に住んでいる。定年退職して、四年が経とうとしている。

無職になって、つくづく思うのがこれからのこと。どう過ごしていくのかという。今続けていることでもいいのだろうかという不安が浮き沈みする。そんな時に同級のY君やA君が声をかけてくれ、小旅行をするようになった。そんな中で『郷友会』の話があり、誘われるままに入会。この会が百年近く続いてきた

ことを知り、続けてきた力の大きさに驚くばかりであった。この会の冊子を作るということでも投稿する機会をいただいた。これも縁かと思いい、今までを振り返りながら、今やっていることの支えのよくなものが発見できたらと願っている。

無職になって四年目に入った。今やっていることと小・中・高の頃との結びつきを見ると何か丹波と自分とが結びつくような気がする。始めてから日の浅いものだが。

まず野菜作り。猪名川の河川敷を切り開いた「矢間農園」の24平方畝の一面の畦だ。今、石灰を撒き肥料を入れ、夏

野菜の準備ができた。今年四年目、石の上にも三年と言うが、まだまだ不安だらけだ。うまく育ってくれるか。菜園日記なるものをつけながら、明日することをメモしている。

二つ目が習字、手本を見ながら作品二点を先生のところへ提出。これも「一日一時間は筆を持つ」を掲げながら、提出日迫ってからの作成。それでもここ数年、二部の提出を欠くことなく来ている。また多田地区の作品展に画仙紙に書き出品することができた。願いは年賀状を筆で書けるようになりたい。

三つ目は、これが一番手強い。男料理教室。メンバーは70代と60代の男10名。月一回、レシピの説明を受け、二班に分かれ、五品を作る。一人一つなのだが、結構手間どるものがあり、それに当たるプレッシャーがかかる。でも完成し、皆さんから一言感想をいただくとちょっといい気分になる。

今まで多くの料理を作ってきたが、家で作るとなるといささか勝手が違い、うまく作れないのが課題だ。材料を揃えるところからが問題。そこを乗り越え作りやすいものから取り組むことだ。おせち料理を作ったなどと報告されるのを聞くと、私も隣の方に何か報告したいものだ。この教室、六年目になる。

最後に、万歩計だ。昨年十月から「かわにし健康マイレージ」という健康センサー主催の事業に参加。一日一万歩に百分かかることがわかり、近所にある神社仏閣をめぐるコース。多田神社、多太神社、九頭大明神、多田平野湯の町薬師庵、矢間八幡宮、眼力不動明、大聖毘沙門天等が適当な間隔であり、歩いて回るのが都合がいい。

そのほかにも能勢電鉄主催のハイキングが月に何回か行われ、妙見山を中心に近くの山々をめぐるコースに参加している。地域の体育行事にも出席して、ポイ

ントを得ている。この事業に参加しようと思ったのは丁度その頃、体調を崩し気分的に落ち込んでいた時、とにかくマイペースで歩いていれば体調もそのうち良くなってくるのではと思ったからだ。

これらのことで大切なのは続けていくことだと思っている。続けていけば必ず結果がついて来るものだ。どんな結果かはわからないが、健康な日々が送れるのではと思っている。

続けると言えば、小学校では稲畑のお宮様前に集まり、佐治川堤防沿いの道を西へと行き、南小学校へ通った。上級生や下級生も一緒だったので、苦痛だとは思わなかった気がする。南中学校ではやはり徒歩だったが佐治川を渡り、谷村という集落まで通った。

冬には耐寒マラソンがあり、早朝、校舎と佐治川堤防との間を走った。何回走ったかを記録報告する形だった。皆よく走っていた。私も負けずに走ったこと

を覚えていて。柏原高校へは自転車通学。片道約六キロぐらいだったと思う。朝7時30分までに門を通過するのに間に合うように飛ばした。冬などは頭から湯気を出しながら教室へ入った。春と秋にはマラソンがあった。六千円と一万二千円だったと覚えていて。体育の時は裏の八幡さんを登り降りした。こうして見ると、根気よく続けるということは小中学校の間で培われたようだ。まわりの皆も一生懸命に走っているように見えた。

今やっていることを続けていこうと思っている。いつまでできるか分からないけれど、健康な体で少しでも長い期間過ごしたいものだ。今このように元気で過ごせているのは、丹波そのものが私を育ててくれたお陰だ。それをこれからも大切に、今やっていることの中から次への工夫が生まれ、育てていきたいものである。

(氷上町出身、川西市)



## 悩み、相談事に生きがい

会報委員 仁 藤 欽 嗣

昭和37年に柏原高校を卒業、東洋信託銀行（現、三菱UFJ信託銀行）に就職した。銀行系コンサルタント会社の三菱UFJ個人財務アドバイザーズ株式会社の仕事を退職後、神戸家庭裁判所尼崎支部の家事調停委員となった。その後、家庭裁判所の参与員、西宮市市民相談課の家事相談員となり、調停委員退任後は参与員、家事相談員と並行して、公益社団法人家庭問題情報センター（FPIC）大阪ファミリー相談室に勤務している。

遺言の必要性を説明し、多くのお客様の公正証書遺言作成のお手伝いをしてきた。阪神淡路大震災で配偶者を亡くされた方から、遺言を作成してくれていてありがたかったとの声を聞き、遺言の必要性を改めて認識した。

家事調停委員になって、遺産分割事件で遺族が醜い相続争いをするのを目のあたりにして、正しい遺言さえ残しておけばこんなに採めることはなかったのにと残念な思いをしたことが何度もあり、その都度遺言の必要性を痛感した。

市役所の相談では、相続と夫婦関係の問題が多い。相続では、遺言の種類（公

正証書遺言と自筆証書遺言）やその作成方法の基本、相続が発生したときに遺言があった場合となかった場合の違い、また、すでに相続が発生している場合は、手続き方法についてなど基本的な事柄を説明している。夫婦関係では離婚についての相談が多い。協議離婚を考えている方が多いが、家事調停委員として離婚事件を数多く担当してきた経験から、離婚時の約束事の履行を担保するためにも、調停制度を活用すべきと思っている。

家事調停は1つの事件に裁判官1人と男女各1人の調停委員が担当し、当事者双方の合意形成に向けて真摯に公平に取り組んでくれる。費用負担も数千円程度と少なく、積極的な活用が望まれる。

家庭裁判所参与員の任務は、成年後見人等の申し出があった場合、本人や後見人候補者と面接し、適格かどうかを判断して裁判官へ意見具申すること（受理面接）と、すでに後見人等を務めている人

から1年毎に提出される財産目録や収支目録等の書類を審査する（後見監督）のが主な任務である。

平成12年に介護保険制度と成年後見制度が高齢社会を支える車の両輪と言われてスタートした。介護保険制度の利用者が500万人を超えているのに対し、成年後見制度の利用者は18万人（平成26年末）と非常に少ないのが現状である。この制度をより使いやすくすること、不足がちな後見人候補者の育成が課題となっている。

成年後見制度は認知症高齢者等を守るために、財産管理や施設などの入所契約などを本人に代わって行う後見人等（法定代理人）を家庭裁判所が選任する制度である。判断能力の程度に応じて「後見」「保佐」「補助」の3種類がある。制度スタート当初は親族後見人が多かったが、本人の財産の横領や使い込みなどの不正流用が増えたため、弁護士や司法書士な

どの専門家の比率が高くなっている。

その後、親族だけでなく専門家の不正も増加しており、裁判所ではその対策として、一定以上の預貯金がある場合、信託銀行の後見制度支援信託に預け入れ、入出金時には裁判官の許可を必要とすることで不正の防止を図る仕組みが活用されている。

後見制度には、認知症等ですでに判断力が衰えている人を対象とする「法定後見制度」と、今は大丈夫だが将来判断力が低下した場合に備えて、自分の信頼できる人又は団体を後見人と定め、その内容を公正証書で残しておく「任意後見制度」がある。今後はこの制度の増加が見込まれている。

2年前の家事調停委員退任時に勧められて、公益社団法人家庭問題情報センター（FPIC）大阪ファミリー相談室に勤務することとなった。家庭裁判所調査官OBが中心になって平成5年に設立

された民間団体である。その後、家事調停委員経験者も加わり全国的な組織となって多くの方に利用されている。

ここでの私の活動の柱は、子どものよい良い発達のために、別居や離婚で一緒に暮らせない親子の交流を仲立ちすること（面会交流支援）である。当相談室では、土曜日や日曜日も利用できるように利用者は増えている。今後は更に経験を積んで、裁判外調停（ADR）や後見人の受任業務などにも取り組みたいと思っている。

信託銀行を振り出しに、コンサルティング会社、家事調停委員、参与員、市民相談員、FPICと、お客様や当事者から悩みや課題などを相談される仕事に従事してきた。その時々と与えられた仕事を天職と思って、生きがいを感じながら取り組んできた。これからも可能な限り力を尽くしていきたいと思っている。生涯現役を目指して。

（柏原町出身、西宮市）

# 放置の山を宝の山に

## 丹波グリーンパートナーの活動

地域おこし協力隊 十倉 哲生

私は高校卒業と同時に丹波を離れ、最後は東京で仕事をしていましたが、自分の家族を持って、どんな環境で生きていきたいかを考え始めた時に、丹波の面白い人達と知り合うことができ、また地域おこし協力隊という制度があることも知って、昨年4月にUターンしてきました。

今は私のUターンと同じ時に立ち上がった『丹波グリーンパートナー』というNPO法人で、持続可能な社会の実現を目指して、丹波市の山の価値を高めていく取り組みに挑戦しています。

世の中の変化のスピードは加速するば

かりで、自分たちの暮らしが何によって支えられているのか、また、この社会はどこへ向かおうとしているのか分からなくなってきました。このまま経済成長を求めていくことが未来の子供たちの健康や豊かな生活につながると言い切れない、そう感じている人は少なくないと思います。しかし、目の前の生活や、ここまで続いてきた社会の仕組みを捨てて新しい生活スタイルをゼロから作ることも容易ではありません。

それでも、誰かに突然奪われることのない持続可能な社会、未来の子供たちが安心して生きていける地域を残したいと

思うのなら、この時代の当事者である私たちは今すぐにもアクションを起こさなければいけません。

また、丹波グリーンパートナーが活動の場としている山という側面からも、「今のままではいけない」と再認識する出来事がありました。平成26年8月、丹波市は豪雨災害に襲われ、多くの里山が崩壊し、民家に多大な被害をもたらしました。普通では考えられない量の雨が降ったことが直接の原因ですが、山の手入れができていれば崩壊しなかった場所があったかもしれません。獣害やヒルの大量発生も問題になっています。

では、山の手入れをしてこなかった山主さんの責任を問えば良いのでしょうか。そうではないと思います。これまで社会システムでは単純に、山の管理の優先順位が低かったのです。また、どちらかと言うと対処療法的な、やらずに済むならやりたくない、そんな立ち位置



切り出してきた間伐材を木の駅へ出荷（市島町段宿で）

だったのです。

「手入れせなあかんねんどな」と  
思いながら1年間放置しても大きな変化

はないのです。気になっていても、他に

緊急の事案や経済効率の良い事業があれば、そちらが優先される仕組みの中で、

折り合いをつけて今日まで  
きたのです。

私達はその判断を批判したり、無理やり変えようというのではありません。これまでお荷物だと思われていた山から価値を見出し、共生する道を再発見することで、少しずつ優先順位を上げていきたいと思っています。

『土砂災害を防ぐためではなく、家族や友人とお弁当を広げる憩いの空間を作るために』

『鹿やヒルを追い返すためではなく、「柴（しば）」「薪（たきぎ）」という無料の

エネルギーをいただきに』

『花粉に嫌な顔をするのではなく、もぎたての果実を楽しむために』

——里山に入っていくましよう。誰かが書いたシナリオにお金を払うのではなく、私達が持っているこの山を、私達の手で、幸せな時間が流れる場所にしていきましょうよ。丹波市内にそういう時間の使い方ができる人が増えていくことで、持続可能な社会に近づくことができるかと考えています。

このような社会を目指しながら、地域課題の解決を進めていく組織として、NPO法人丹波グリーンパートナーが活動を開始して1年になります。昨年度は7月にシンポジウムを開催し、250名の方にご参加いただくことができました。そのシンポジウムでの呼びかけに賛同いただいた市民の方々と「丹波市木の駅実 行委員会」を立ち上げ、9月から市内の木材の買い取りを始めています。

この「木の駅」で買い取る木材を加工し販売していくことで、丹波市内の資源を地域で活用する仕組みを作ろうと思っています。この春は『地産エネルギー』の薪作りで忙しくしていますが、原油価格の下落という、コントロールできない外部要因で計画通りに行かないことも起きています。

それでも、いざというときに薪で暖を取って煮炊きができるということの価値は変わらないと信じて薪割りに汗を流しています。関連して薪ストーブや薪ボイラーの販売をしたり、木造農業ハウスを作ってみたり、山の価値を高め、宝に変えていく活動を今後も継続していく予定です。

最後に、このNPOは平成23年に策定された「丹波市地域新エネルギービジョン」の実現のため、丹波市の呼びかけから設立されたもので、現在も市からの助成金をもらいながら活動をしています。

先に述べたような持続可能な社会の担い手を増やしていくために、もっと活躍の幅を広げていきたいと考えています。ボランティアではなく、継続して活動していく組織ですので活動費が必要です。NPO法人丹波グリーンパートナーの賛助会員としてのご参加や、寄付で応援していただけますと幸いです。よろしくお願いたします。

(山南町在住)



## 丹波に「未来へのヒント」見る

田代春佳

「若いのに、なんで丹波に？」―丹波市に暮らしていると、初対面の方からは大抵この質問が飛んできます。移住してしばらくは、「自然が豊か」「野菜が美味しい」、などを移住の理由にあげていました。ですが、正直のところ移住して2年ほどは、「よく分からないけど、来た」と思った」という答えが、精一杯の本音でした。

平成2年の春、私は千葉県我孫子市で生まれました。小中学校は地元の学校に通い、英語への熱が人並み以上にあったことから高校はカナダに単身留学。「英語しか話せないように、日本人がいない

ところがよい」と、背水の陣に自分を追い込み、辿り着いたのはロッキー山脈の麓に位置する人口4000人の陸の孤島でした。ここで2年ほど過ごし、その後は東京の大学に通い、卒業後まもなくIターンで丹波市に来ました。「結婚ですか？」とよく聞かれるのですが、残念ながら違います。魅力的なお仕事と、楽しそうな住まいがあったこと。なにより直感が「丹波に行こう」と言ったからです。そうして、23歳まで「丹波Ⅱ黒豆」以上の知識がなかった私が、現在は丹波市の移住相談窓口に勤めております。丹波市を「株式会社丹波市」という企業に例

えるならば、「人事部の採用担当」に位置するのでは？と、随分と重要な役割をいただいてしまったと内心焦りながらも、日々やりがいを感じています。

これは私が勝手に意気込んでいるだけかもしれませんが、人口が減っている丹波市に入ってくる「新入社員」は、丹波を担っていく存在になる可能性がある中で、「誰でもどうぞ！」というわけにはいきません。75%の森林率をもつ丹波市には、森の整備を考える人が欲しいところ。甲子園球場の約200個分の耕作放棄地がある丹波市には、農的な暮らしを営む人も増えて欲しい。3000棟近く空き家のある丹波市には、そういった空き家を活用できる人も来てほしい。

後継者不足の事業者さんがあるので、熱意をもって働いてくれる人も欲しいところ。そんな状況もありながら、「なぜ丹波を勧めるの？」という問いは、常に頭の中をぐるぐる回っています。



「移住相談ワンストップ丹波」の“三姉妹”（右から地域おこし協力隊の八木下さん、私、地域おこし協力隊の中川さん）

そんな問いに対して今回改めて考えを巡らせてみると、ふと気がつくことがありました。平日の朝、都会で駅員さんが満員電車に人を詰め込んでいる頃、丹波

年はなにで漬けるんけ？」と庭の梅をおすそ分けしてくれるおばちゃんがいいたり、チェーンソーを使いこなして里山を整備するおじちゃんがいること。

では保月城の頂上に朝日を浴びに登山して、1日の元気を蓄える人たちがいること。平日の昼間、都会では冷房に冷やされた無機質な空間で単調な時間を過ごしている頃、消費するだけでなく、命を育む愉しさを知る丹波の人は、「ほんまえらいわ〜」と額から大粒の汗を流しながらも、些細な自然の変化を感じ、農作業の段取りを考えていること。

金曜の夜、丹波では村の公民館に明かりがついて、賑やかなカエルの声に包まれ「夏祭りの準備会議」という名の地酒つきのお会が開かれること。私はそんな暮らしと時間の流れに、「未来へのヒント」を見ている気がします。

週末の昼間、都会では平日の仕事に疲れ果てて布団にくるまっている頃、「今日

近頃はよく、「丹波の魅力を発信してくれてありがとう」と言っていたが、私には「とても嬉しいことですが、私にはそれぞれの人が輝ける場所を見つける手伝いをしたい」という強い思いがあります。そんな場所を見つけるきっかけが丹波にはあると感じており、実はその「場所」こそ、丹波が抱えている「課題」にあるのではと思います。丹波にある「課題」と「人」を結びつけることで、丹波を人生の舞台にし、イキイキするきっかけを掴む人が増えたらよいなと思っています。

（春日町在住）

# 熊野神社の裸祭

監事 足立 壽宏

(表紙の写真も)

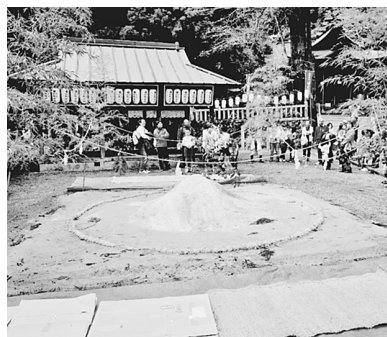


「先幣」と呼ばれる榊（中央）が境内を回った後、本殿前で争奪する



◀争奪した榊を家に持ち帰り、  
家内安全などを祈る

▼子供相撲用に作られた土俵





熊野神社（青垣町遠阪）の祭神は伊弉册命<sup>いざなみのみこと</sup>。旧遠坂村をはじめ神楽谷、柴村（現朝来市）の氏神としてあがめられた。祭礼はそれらの村々が立ち会って行い、15歳になった村々の男子が神社のそばを流れる今出川で身を清めてから、しめ縄を腰に張って素裸で神事に奉仕していた。それが伝わって、各地から加護を受ける人が広まり、お礼参りするために今出川で身を清めて神事のお供をするようになって、現在の裸祭に発展していった。毎年11月3日に行われる。近年では数少ない奇祭と見られ、地区外からの飛び入り参加者も増えている。協賛行事としてちびっ子相撲も行われる。



子供を先頭にいざ出陣



樹齢400年以上の大杉に囲まれた本殿

## 編集後記

明治30年代に発足した関西丹波市郷友会は、120年近い歴史を持ちます。「ふる里の青少年の健全育成に寄与する」との理念を掲げて活動してきましたが近年、会員の高齢化に伴って会員数が減少し、存続の瀬戸際にさえ追い込まれてきました。しかし、せっかくここまで諸先輩方のご努力で続いてきた会を終わらせるのは忍びない、もう一度会員を増やして立て直そうという機運が役員会で持ち上がり、その一環として新たに会報を発行し、広く配布して会員募集に役立てようということになりました。

会報委員会を立ち上げて年時から準備を進め、関係者に記事の原稿や広告での協賛を依頼して、「たんば」と命名してこのたび何とか第1号の発行にこぎつけました。以前にも「会報」はありました

が、広く会員から寄稿を集めた形としてはこれが第1号となります。今後も毎年発行して行く予定で、本誌を媒体にして会員同士が近況を伝え合ったり、丹波の発展につながる論議を深めることが出来ればと願っております。

沢山の皆様のご協力で、この媒体が誕生しました。荻野丹雪様にはすばらしい題字をご提供頂きました。お世話になった方々お一人お一人に心よりお礼申し上げます。そして本会の再建を軌道に乗せ、これまで以上の発展につなげられますよう、今後とも一層のご協力をよろしくお願い申し上げます。

会報委員長 山口 直樹

会報委員 芦田 敬一 足立 直正

大槻佐知子 小田 晋作

岸田 康博 高田 温美

田 恭子 仁藤 欽嗣

山口 直樹 吉見 弘文

## 関西丹波市郷友会 役員

名誉顧問	足立 良平	会長	有田 秀雄	財務理事	足立 敏
〃	大塚 久喜	常任理事	小田 晋作	理事	芦田 敬一
〃	岡崎 昌三	〃	岸田 康博	〃	池畑廣士郎
〃	中川 泰洋	〃	田 恭子	〃	田 晴行
〃	深田 充啓	〃	本田 冴子	〃	野村 忠利
		〃	山口 直樹	監事	足立 壽宏
		〃	山口 洋子		



## ロマン城下町かいばら

私たち株式会社まちづくり柏原は、地域住民の声を聞き、柏原の歴史文化にあったまちづくりに取り組んでいます。「丹波市らしさ」「柏原らしさ」を大切にし、住民たちによる様々な活動により生まれる魅力によって、柏原を訪れる人や新しい住民を増やすきっかけになると考えます。私たちは地域開発のプロデューサーとして、住民、商業者、行政をはじめ多くの人々と連携し、精力的にまちづくりを進めます。



■テナントミックス事業



■町なみ環境整備事業



■関西学院大学連携事業

代表取締役：荻野吉彦(荻野与作商店 代表取締役)  
取締役：土田博幸(㈱土田商事 代表取締役)  
：前川隆正(㈱丹波の森ショッピングタウン 代表取締役)  
：岡林利幸(㈱オカバヤシ 代表取締役)  
：土田光一(㈱土田化学 代表取締役)  
：菊本裕三(きくもとグラフィックス㈱ 代表取締役)  
：黒田好信(黒田測量設計㈱ 代表取締役)

### 株式会社まちづくり柏原

〒669-3309  
兵庫県丹波市柏原町柏原688-3  
TEL:0795-73-3800  
FAX:0795-73-3801  
HP: <http://www.kaibara.org/>

まちづくり柏原  
直営店

イタリアという国の食文化が多様な郷土料理の集合体であるように、オルモも丹波に支えられ、生かせるものでありたいという思いでお料理を提供しています。都会にはない素朴で上品で、心落ち着くイタリア料理店です。

TEL.0795-73-3800  
〒669-3309 兵庫県丹波市柏原町柏原688-3  
HP: <http://www.kaibara.org/>

olmo イタリア料理





あなたとまちとフェイス to フェイス

# 中兵庫信用金庫

理事長 足 立 厚 郎

〒669-3693  
兵庫県丹波市氷上町成松226-1  
Tel (0795) 82-8850(代)

ゆ め  
希望と



うるおいのある

まちづくり

 JA丹波ひかみ

代表理事組合長 荻野 友喜

〒669-3461 兵庫県丹波市氷上町市辺 440

TEL:0795-82-0170 FAX:0795-82-3658

URL:<http://www.ja-tanbahikami.or.jp/>

# 敬 愛 会 法 人 医 療

理事長 大塚 久喜

本部 〒669-1333  
兵庫県三田市下内神525-1(三田高原病院内)  
TEL(079)567-5107

救急告示病院	介護老人保健施設
<b>大塚病院</b>	<b>ひかみシルバーステイ</b>
〒669-3641 兵庫県丹波市氷上町絹山513	〒669-3641 兵庫県丹波市氷上町絹山523
療養型医療施設	療養型医療施設
<b>三田高原病院</b>	<b>三田温泉病院</b>
〒669-1333 兵庫県三田市下内神525-1	〒669-1353 兵庫県三田市東山897-2
介護老人保健施設	介護老人保健施設
<b>三田温泉シルバーステイ</b>	<b>神戸ポートピアステイ</b>
〒669-1353 兵庫県三田市東山897-1	〒650-0046 兵庫県神戸市中央区港島中町5-2-3
介護老人保健施設	療養型医療施設
<b>豊岡シルバーステイ</b>	<b>西宮敬愛会病院</b>
〒668-0065 兵庫県豊岡市戸牧1132番地2	〒663-8203 兵庫県西宮市深津町7-5



医療法人 豊 濟 会

# 小 曾 根 病 院

許可病床数 **557** 床

## 介護老人保健施設 やすらぎ

定員数 **84** 床

大阪府豊中市豊南町東2丁目6番4号 06-6332-0135

理事長 中 川 泰 洋

理事 石 井 和 生


理事 芦 田 昇 治

理事 田 晴 行

理事 遊 佐 裕 子

院長 西 元 善 幸

老健施設長 立 花 暉 夫



教団基本方針  
「笑顔で一人がひとりを幸せに  
今こそ実践世の道具」

平成30年「立教百年祭」

(えんのうきょう)

**円 応 教**

教主 深田 充啓

〒669-3142

兵庫県丹波市山南町村森1-1

TEL. 0795-77-0430

ホームページ / [www.ennokyo.jp](http://www.ennokyo.jp)



自然とのふれあいを大切に、大地からの贈り物

**EARTH MATTERS**<sup>®</sup>

アースマターズ



プリザーブド & ドライフラワー

株式会社 **大地農園**

〒669-3154 兵庫県丹波市山南町工業団地内  
TEL. (0795) 77-2311 FAX. (0795) 77-2318

<http://www.ohchi-n.co.jp/>



facebook

▶ 文具・事務用品・高級筆記具・書道用品・印章・ゴム印



新・文具館 柏原本店  
Dear Juno  
リニューアルしました！

新文具館

新・文具館 柏原本店 (1F)

☎ 0795-72-1223

<店舗直通>

▶ 生活雑貨・インテリア雑貨・ギフト用品・キッチン雑貨・バス用品



Dear Juno (2F)

☎ 0795-72-1223

<店舗直通 (新・文具館 共通)>

▶ OA機器・オフィス家具・事務用品・文具通販

**TSP 株式会社土田商事**

代表取締役 土田博幸

☎ 0795-72-1117

<営業部直通>

〒669-3311 兵庫県丹波市柏原町母坪409-1

<http://www.tsp-group.jp>

# 山林をクリエイティブに

一般建築用材・内外装材製造販売  
山林再生事業/住宅用地分譲販売



# MOKUEI

## 株式会社 木栄

地域の山を守りながら、未来に残したい  
くらしの景色を守る木づくりを進めております。

木の事なら住宅や店舗から神社仏閣まで  
まるごとお任せください。

〒669-3821 丹波市青垣町桧倉 323-3  
TEL:0795-87-5216 FAX:0795-87-5446

<http://www.mokuei.co.jp> 



富士山のバナジウム天然水  
(富士山の銘水)

京都ナチュラルミネラル天然水  
(京都丹波の銘水)

大分のゲルマニウム天然水  
(大分天領の銘水)

島根金城の華アルカリイオン天然水  
モンドセレクション金賞



採水地のある富士山が世界遺産登録



**丹波より全国へ展開中!**

**全国製造総発売元**

**株式会社 オーケンウォーター**

よ い み ず  
TEL0795-70-4132 ☎0120-041-999

詳しくは



断熱と防音で「あなたらしい住環境」を創造する

# 谷水加工板工業株式会社

兵庫県丹波市氷上町賀茂 1 4 5 7 番地 1  
TEL: 0795-82-2117

たにみず加工

検索

# ヤマウチ製菓 株式会社

代表取締役社長 岡田 和義

〒555-0024 大阪市西淀川区野里一丁目32番22号  
TEL 06-6472-1064 FAX 06-6472-9933

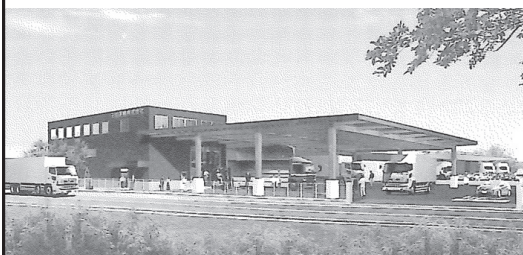
# 三協運輸 株式会社

本店住所 埼玉県桶川市坂田字向 990-1

創立 30 周年を迎え、お陰様でつつがなく発展しております。

東海道を中心に大型トラック約 200 輛  
最新鋭設備を備えた物流センター及び倉庫約 12,000 坪  
を軸に毎日フル稼働の体制で活動してまいります。

〔安全・安心・朗らか〕を旗印にご期待に応えて参ります。



本店 新社屋（敷地面積 4,000 坪、建物面積 2,000 坪）平成 23 年 10 月 1 日完成



関東発一関西行の風景

出発直前の大型トラック部隊  
毎日 200 台の車輦群が東海道を  
中心に走っております。

〔主要取引先〕 順不同

三井化学(株) 味の素(株) ダイキン工業(株) アサヒビール(株) 三菱商事(株)  
麒麟ビール(株) 沖電気工業(株) 古河電工(株) ハウス食品(株) 帝人(株)  
新神戸電機(株) (株)東芝 キューピー(株) ブリジストン(株) 江崎グリコ(株)

# 三協運輸 株式会社

代表取締役会長 岸本勲（氷上町出身）

本店 埼玉県桶川市坂田字向 990-1 TEL.048(728)9380

E-mail:sankyounyu\_saitama@h6.dion.ne.jp

本店配車センター 埼玉県桶川市坂田字向 990-1 TEL.048(729)0466

大阪支店 大阪府大東市新田中町 3-3 TEL.072(806)2821

物流倉庫所在地 東京・埼玉・神奈川・名古屋・大阪



東燃ゼネラルグループ

TonenGeneral

**EMG**

**有田産業株式会社**

代表取締役 **有田 秀雄**

〒553-0002 大阪市福島区鷺洲3丁目1-38

TEL (06) 6451-1649 (代表)

FAX (06) 6451-0580



**Mobil**





兵庫県・京都府下  
18店舗展開中

作業服・作業用品専門店

オオツキは『頑張っておられる人』『働かれている人』を  
商品と真心で応援するお店です。

『家事』も大切な仕事！！  
主婦の方に役立つ商品もたくさんあります。  
是非ご来店下さいませ！！

会員カード(ダルマカード)発行中!!

- ◎毎月 9日・19日・29日はポイント 2 倍デー！
- ◎毎週水曜日レディースデー！（女性の方はポイント2倍）

ラジオ関西にてCMソング放送中！“三上公也の情報アサイチ”の1コマ  
朝7時30分から40分あたり(月～木)で流れます

丹波市のFMラジオ“805たんば”  
でも放送しています

是非  
お聞き  
下さい!!



株式会社

オオツキ

兵庫県丹波市春日町新才518 TEL：0795-74-0179 FAX：0795-74-2833

<http://www.otsuki.ne.jp> e-mail [info@otsuki.ne.jp](mailto:info@otsuki.ne.jp)



# たんば黎明館

## ル・クロ丹波邸

(お箸で食べるフランス料理)

### 各種宴会ご案内

同窓会・歓送迎会・各種お祝い

4名～60名様〈1階個室、2階宴会場完備〉  
送迎付きプランやお客様のご予算に応じてご相談承ります

#### 基本プラン(基本2時間)

★コース・テーブルビュッフェ・ビュッフェで提供出来ます。

Aプラン…お一人様 5,400円

前菜、お魚料理、お肉料理、デザート、コーヒー、パン

Bプラン…お一人様 7,000円

アミューズ、冷前菜、温前菜、お魚料理、お肉料理、デザート、コーヒー、パン

Cプラン…お一人様 9,000円

旬の高級食材を使ったシェフお勧め特別フルコース

\*全てのプランにフリードリンク(ビール、ノンアルコールビール、ワイン(赤・白)・ソフトドリンク)が含まれます。

### ル・クロ丹波邸 コースメニュー

#### ●ランチメニュー

- ・サービスランチ 1,620円
- ・プチコース 1,944円
- ・ル・クロコース 2,808円
- ・シェフスペシャル 5,184円

アラカルト(単品)  
430円～

#### ●ディナーメニュー

- ・プチコース 3,564円
- ・ル・クロコース 5,400円
- ・ピヤベースコース 5,960円
- ・シェフスペシャル 7,020円

ドリンク  
540円～

※アミューズ(お付きだし)代として  
600円別途頂きます。

●お祝い事など気軽にお問い合わせ下さい。スタッフ一同でお祝いさせていただきます。



ル・クロ丹波邸

Le Clos

〒669-3309

丹波市柏原町柏原688-3

#### ●ランチ

11:30～15:00(L.O.14:00)

#### ●ディナー

17:30～22:30(L.O.21:30)

ル・クロ丹波邸では  
結婚式も出来ます

TEL/FAX0795-73-0096

休 水曜日〔祝日の場合は営業〕

2F タンバール(ダイニングカフェ) \ 毎日ランチバイキング開催中/  
■ランチバイキング 1,296円 お料理12種、デザート、チョコレートファウンテン、コーヒー、紅茶

※価格はすべて税込み

本格会席・創作料理の店

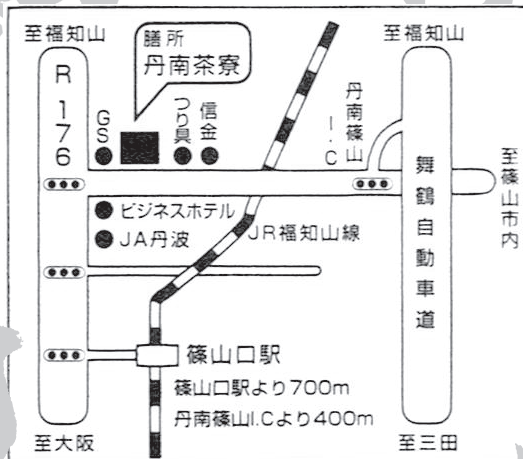


# 丹南茶寮

春は山菜、夏は川魚、

秋は栗・松茸、冬は山の芋…

丹波の四季をお楽しみ下さい



【アクセス】

最寄駅 篠山口駅〔JR福知山線(宝塚線)〕

# 和食膳所

[tannansaryou.com](http://tannansaryou.com)

ミニ同窓会・ご商談にお気軽にどうぞ

# 和食膳所 丹南茶寮

〒669-2214 兵庫県篠山市味間新92-4

☎(079)590-1020

【駐車場】

有り(無料) - 7台まで

【営業時間】 定休日翌日は17時より

お昼の御食事

11:30~13:30

夕晩の御食事

17:00~22:00

【定休日】水曜

※第4木曜日(変更になる場合有)



代表 鷺尾英紀

大和

氷上町石生水分札

TEL(0795)8216010  
FAX(0795)8216630



丹波  
KISAKU

k i s a k u

ご予算に応じます。

丹波市柏原町柏原77-1(柏原駅前)

電話 0795-72-1044

<http://www.tanba-kisaku.jp>

有限会社 エス・ディー

みなさまの



# 信頼感 と 顔の見える 安心感

生命保険

終身保険

定期保険

個人年金保険

医療保険

がん保険

火災保険



自動車保険



けがの保険



賠償責任

など

損害保険・生命保険は  
エス・ディーにご用命ください

当社は関西水郷友会の  
青少年健全育成に協力しています。

各種保険の内容や  
事故対応について  
何なりとご相談下さい！



東京海上日動火災保険株式会社 損害保険シャパン日本興亜株式会社 代理店

## 有限会社 エス・ディー 担当：嶋田

〒550-0013 大阪市西区新町2丁目15番地27号 TEL 06-6539-3229

# ザンキン B&G 株式会社



代表取締役社長

濱岡 哲夫

常務取締役

田 晴行

〒550-0013 大阪市西区新町2丁目15番27号

TEL (06) 6539-3281 FAX (06) 6539-3238

建設業者登録	国土交通大臣 第21287号
一級建築士事務所登録	大阪府知事 第5916号
宅地建物取引業者登録	大阪府知事 第41184号

---

建設事業部（ビルドB） 農芸施設事業部（グリーンハウスG）

- ・ 建築工事の設計及び施工請負
- ・ 不動産の売買及び仲介
- ・ 農業用施設の設計及び施工請負
- ・ 二段式駐車装置の施工販売
- ・ 太陽光発電システムの設計及び施工請負

---

本社、西部営業所、羽生事業所、沖縄出張所

伝えたい  
届けたい

# 丹波新聞



## 甲冑姿で黒井城山登山

黒井城址のPRに、甲冑姿で城山を登山  
山頂にて雲海をバックにポーズをとる地元の人たち

**丹波新聞社** 〒669-3309 丹波市柏原町柏原201

丹波新聞

検索 

tel.0795-72-0530

fax.0795-72-1956

週2回(日・木)発行 1ヶ月1,255円(郵送料205円)



— 違いがわかれば、こんなに楽しめる。 —



お米の違いで味が違う。日本酒が楽しいシリーズ。  
今後とも、変わらぬご愛顧をよろしくお願い申し上げます。



Ⓜ 丹波美酒 川鼓

醸造元 (株) 西山酒造場  
〒669-4302 兵庫県丹波市市島町中竹田1171  
※窓口販売もしています。

TEL. 0795-86-0331 FAX. 0795-86-0202  
オフィシャル: <http://www.kotsuzumi.co.jp/>  
ネットショップ: <http://www.tsuzumiya.com/>

おもい 私たちの念は、丹波素材で奏でる「ライブ ステージ」



丹波素材のスイーツ  
丹波特産品の和洋菓子  
夢の里やながわ本店

丹波の心を伝える—  
丹波伝心

夢の里 やながわ

風丹  
土波  
TAMBAFU-DO  
The Sweetness of Nature

株式会社やながわ 代表取締役 柳川 拓三

本店

福知山店

阪神店

兵庫県丹波市春日町野上野920  
TEL 0795-74-0123  
営業時間 10:00▶18:00  
定休日 木曜日

京都府福知山市駅前町343和田ビル1階  
TEL 0773-22-2840  
営業時間 10:00▶19:00  
定休日 木曜日

大阪府大阪市北区梅田1-13-13  
阪神百貨店B1洋菓子売り場  
TEL 06-6348-8580

<http://tamba-yanagawa.co.jp>

創業明治23年（1890年）

# 岡林寫真館<sup>®</sup>

本店 丹波市柏原町柏原JR柏原駅前  
TEL 0795-72-0033 FAX 0795-72-1148  
コモーレ店 丹波市柏原町母坪コモーレ丹波の森内  
TEL・FAX 0795-73-1233

……一度ホームページをご覧ください……

[www.okabayashi.co.jp/](http://www.okabayashi.co.jp/)

岡林写真館

検索 

## 心豊かな暮らしにご奉仕いたします

仏壇 仏具 位牌 宗教行事用具


創業大正8年

# 大仏堂

国道175号線と176号線の交差点すぐ

丹波市氷上町横田（コープこうべ柏原店様前）

お電話代無料

 **0120-2946-37**

ふくよぶ みんな

へお気軽にどうぞ。

FAX 0795-82-5427

丹波の女流俳人

でんすてじよ  
田捨女を知る一冊

「月をいるる露やまことの玉てばこ」  
「いつかいつかいつかと待しきょうの月」

捨女を読む会(小林孔・坪内稔典・田彰子 編著)

田ステ女記念館  
所蔵本使用

新刊  
捨女  
句集



四六並製・160頁・定価1620円(税込)

和泉書院

〒543-0037 大阪市天王寺区上之宮町7-6  
☎06 (6771)1467 FAX06 (6771)1508

<http://www.izumipb.co.jp> 小誌「いづみ通信」呈上

◇松尾芭蕉と同時代を生きた、丹波柏原の女流俳句の先駆者、田捨女(でんすてじよ)の才知が光る**自筆句集全二四二句**を現代仮名遣いで紹介。  
◆句ごとに、鑑賞のためのやさしい解説付き。  
◇併せて、口絵やブックガイド、略年譜、エッセイ、他を収録する。  
◆「この句集を通して捨女が見直され、捨女ファンが増えたらどんなにいいでしょう。実はそれがこの句集を企画・刊行した私たちの願いです。」  
(はじめに「より」)

目次

- はじめに 捨女の俳句 坪内稔典 軽く会釈し 田 晴通
- ステ女と共に 土田富美子
- 捨女句集 本文と読み 小林 孔 解けていない捨女自身の謎 小田晋作
- 自筆句集の成立事情 坪内稔典 《捨女》像の虚実 加藤定彦
- 捨女に親しむためのガイド 田彰子 あとがき 季晴との約束 田 彰子
- 捨女略年譜 田 彰子

前作『うめさんからの贈物』から5年。  
吉田ふみゑ 丹波布復興に賭けた半生を描く。

国の無形文化財である「丹波布」は、民芸運動の中心人物・柳宗悦によって名付けられた。兵庫県の山間の町、丹波の佐治で江戸時代から織られていた「しまぬき」と呼ばれた布はすっかり廃れてしまっていた。しかし昭和のはじめに柳らによって見出され、復興の緒に就く。

その復興の歴史は、昭和25年、西宮から佐治の足立綿屋に嫁いできた康子が、蔵から「天保の縮帖」を発見し、丹波布に魅せられ、丹波布とともに生きてきた年月と重なる。丹波布技術保存会名誉会長・足立康子の半生を通して丹波布復興に賭けた人々の息遣いが聞こえてくる。

推薦 日本民芸協団  
兵庫県民芸協会  
社団法人日本綿業振興会

著者：吉田ふみゑ

歴史民俗誌「サーラ」編集長  
姫路文進姫路文化賞受賞  
著書に『うめさんからの贈り物』

184頁  
[本体価格1800円+税]  
ISBN978-4-939145-35-3 C0039  
北星社〈兵庫県〉

お近くの書店にて  
ご注文ください。

# 丹波布に 魅せられた ひと

吉田ふみゑ 著

# たんばコミュニティエフエム

市民のための！ 市民による……  
放送局です！

## FM80.5MHz

丹波市内で毎日、朝6時から夜10時まで  
放送中です。



FM80.5MHz .....

# 805たんば

特定非営利活動法人 たんばコミュニティネットワーク

〒669-3461 丹波市氷上町市辺 683

Tel.0795-82-1881 Fax.0795-78-9832 Mail:mail@tanba.info

●インターネットラジオ  
(サイマル放送)

または

●スマートフォン  
(無料アプリ)

でも聴けます。

皆様のご支援やご参加を  
お願いいたします。

詳しくはホームページ

<http://805.tanba.info>

をご覧ください。



会誌「山ざる」47号・年1回発行  
柏原町・谷書店にてお求めいただけます。  
1冊 ¥500円

祝 たんば 創刊

## 関東氷上郷友会

心と心のおつきあい

ふるさと丹波と関東地域の丹波出身者の心をつなぐ

会誌「やまざる」にご投稿お待ちしております

お問い合わせは事務局迄

最近関東以北の地域に越された方、ご連絡下さい。

事務局

〒351-0014 埼玉県朝霞市膝折町 4-4-30

TEL 048-460-1601 FAX 048-460-2397

ホームページ <http://pcc-taiyo.co.jp/hikami>

# 広告目次

協賛ありがとうございました。(敬称略)

サンキン …………… 裏表紙	オオツキ …………… 71
山名酒造 …………… 表表紙裏	ル・クロ丹波邸 …………… 72
丸十ロッカー …………… 裏表紙裏	丹南茶寮 …………… 73
まちづくり柏原 …………… 57	大 和 …………… 74
中兵庫信用金庫 …………… 58	喜 作 …………… 75
JA丹波ひかみ …………… 59	エス・ディー …………… 76
敬愛会 …………… 60	サンキンB&G …………… 77
小曽根病院 …………… 61	丹波新聞社 …………… 78
円応教 …………… 62	西山酒造場 …………… 79
大地農園 …………… 63	やながわ …………… 79
土田商事 …………… 64	岡林写真館 …………… 80
木 栄 …………… 65	大仏堂 …………… 80
オーケンウォーター …………… 66	和泉書院 …………… 81
谷水加工板工業 …………… 67	北星社 …………… 81
ヤマウチ製菓 …………… 68	たんぼコミュニティエフエム …………… 82
三協運輸 …………… 69	関東氷上郷友会 …………… 82
有田産業 …………… 70	

# 関西丹波市郷友会に入会しませんか

関西丹波市郷友会は、旧水上郡出身者により明治32年（1899）年に創設され、同郷の人々の親睦と郷土の青少年の育成のために、長年に渡って様々な活動を行ってきました。

しかしながら、時代の変遷とともに、会員の高齢化や会員数の減少など本会を取り巻く状況は大きく変わってきています。この時期に当たり役員会では、伝統に甘んじて惰性的に活動を進めるのではなく、丹波市の将来に真に貢献できる方向で活性化を図る必要があるとの認識のもと、新たな試みを始めました。

本会報誌「たんば」の創刊、年次総会の地元での開催などもその一環で、このほかにも様々な方策を企画準備中です。出身者だけでなく、地元在住の方々にも大いに関わっていただいて情報交換したり議論し合うことにより、人口減少などの困難に直面する丹波市の課題解決に向けて、いささかでもお役に立てる会に発展できればと、願っております。

当会の新たな船出に際し、どうか皆様に加わっていただき、お力添えをくださいますよう、よろしく願い申し上げます。丹波市出身でなくても、何らかのご縁があって丹波に関心を持たれる方ならどなたでも歓迎いたします。

年会費3000円を納入いただきましたら、年次総会のご案内、会報「たんば」の送付ほか、本会が催すイベントのお知らせ等々をいたします。

下記の事務局まで、お名前、住所、電話番号、年齢などを明記してお申し込みください。

## 寄稿を歓迎します 本誌を郵送料ご負担で送ります。

本誌は年1回発行予定です。次号への寄稿を歓迎いたします。

ご希望の方は会報委員長 山口直樹宛て（0795-82-1651）にご連絡ください。

また本誌をご希望の方は、下記の事務局（丹波市以外に在住の方）または丹波新聞社（丹波市在住の方）までご連絡ください。無料。郵券をご負担にてお送りします。

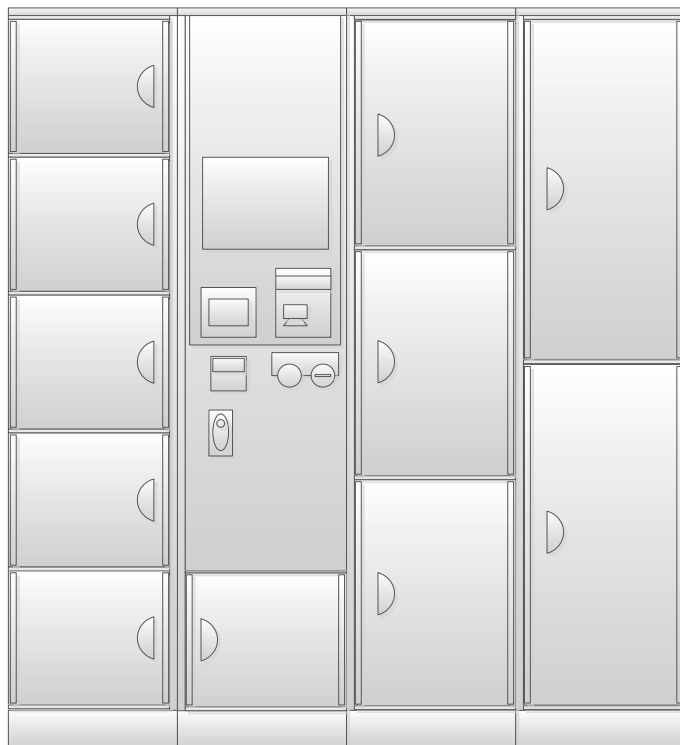
## たんば 第1号

2016年11月1日発行

発行 関西丹波市郷友会（会長 有田秀雄）  
〒550-0013 大阪市西区新町 2-15-27  
サンキン株式会社 内  
Tel.06(6539)3201  
Fax.06(6539)3231

印刷 株式会社 丹波新聞社 Tel.0795(72)0530

# お客様の手荷物保管 スペースを創造して50年。



since

# 1966 → Next

コインロッカーの販売・オペレート

**丸十ロッカー株式会社**

代表取締役 田 恭子

〒664-0858 兵庫県伊丹市西台 4-1-26

TEL:072-772-2654 FAX:072-770-5553

URL:<http://www.marujulocker.co.jp>

契約先 42 社

設置ロケーション数 537カ所

設置台数 4,258 台

設置口数 15,714 口

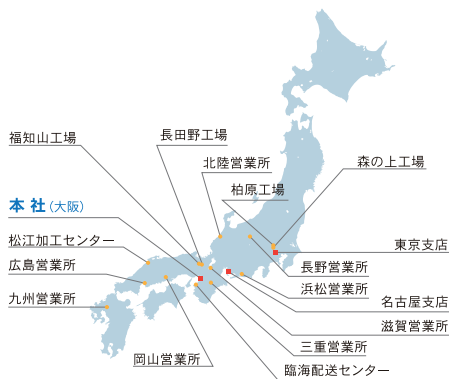
2016年現在



## 真に役立つ存在でありつづけたい

私たちサンキン株式会社は平成28年1月11日をもちまして  
創業70周年を迎えることができました。

これもひとえに皆様のご支援、ご愛顧の賜物と心から感謝いたします。  
今後ともなにとぞよろしくお願い申し上げます。



## サンキングループ

新進株式会社  
サンキンB&C株式会社  
サンキンエンジニアリング株式会社  
ステアックス株式会社  
弘洋鋼管株式会社  
サンキン（タイランド）株式会社  
P.T.サンキンインドネシア株式会社

 **サンキン株式会社**

<http://www.sankin.co.jp>